

人 口 動 態 総 覧

佐賀県

		実 数			率				全 国 順 位	R6年平均 発生間隔 時 分 秒
		令和6年	令和5年	増 減	令和6年	令和5年	増 減	全国R6年		
出	生	4 824	5 144	△ 320	6.2	6.5	△ 0.3	5.7	7	1 49 15
	(男)	(2 436)	(2 642)	(△ 206)	(6.6)	(7.1)	△ 0.5	(6.0)	6	3 36 21
	(女)	(2 388)	(2 502)	(△ 114)	(5.9)	(6.1)	△ 0.2	(5.4)	7	3 40 42
死	亡	11 381	11 199	182	14.6	14.2	0.4	13.3	24	0 46 19
	(男)	(5 515)	(5 403)	(112)	(14.9)	(14.5)	0.4	(14.0)	28	1 35 34
	(女)	(5 866)	(5 796)	(70)	(14.4)	(14.1)	0.3	(12.7)	24	1 29 51
	乳児死亡	13	12	1	2.7	2.3	0.4	1.8	3	675 41 32
	新生児死亡	4	4	0	0.8	0.8	0.0	0.9	30	2196 0 0
自 然 増 減		△ 6 557	△ 6 055	△ 502	△ 8.4	△ 7.7	△ 0.7	△ 7.6	17	
死 産		85	108	△ 23	17.3	20.6	△ 3.3	21.8	44	103 20 28
	自 然 死 産	43	52	△ 9	8.8	9.9	△ 1.1	9.8	41	204 16 45
	人 工 死 産	42	56	△ 14	8.6	10.7	△ 2.1	12.1	45	209 8 34
周 産 期 死 亡		16	16	0	3.3	3.1	0.2	3.3	26	549 0 0
	妊娠満22週 以後の死産	12	12	0	2.5	2.3	0.2	2.6	27	732 0 0
	早期新生児死亡	4	4	0	0.8	0.8	0.0	0.7	18	2196 0 0
婚	姻	2 609	2 730	△ 121	3.4	3.5	△ 0.1	4.0	33	3 22 1
離	婚	1 159	1 150	9	1.49	1.46	0.03	1.55	28	7 34 44
	合計特殊出生率	…	…	…	1.41	1.46	△ 0.05	1.15	6	…
生 活 習 慣 病 死 亡	悪性新生物	2 655	2 674	△ 19	341.7	340.2	1.5	319.3	20	
	心 疾 患	1 439	1 505	△ 66	185.2	191.5	△ 6.3	188.2	40	
	脳血管疾患	649	694	△ 45	83.5	88.3	△ 4.8	172.0	35	

注：1) 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡率・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対、生活習慣病死亡率は人口10万対である。

2) 合計特殊出生率とは、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、1人の女性とその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

3) 全国順位は高率順位である。

4) () はそれぞれ、出生と死亡の内数。

第1章 出生

1 出生の動き

令和6年の本県の出生数は4,824人で、1時間49分15秒に1人の割合で生まれたことになり、前年より320人減少し、出生率（人口千対）は6.2で前年の6.5を下回った。

本県の出生率は戦後急激に上昇したが、昭和24年のベビーブームをピークにその後次第に低下した。37年以降は41年の「ひのえうま」を除いてほぼ横ばいであったが、50年以降徐々に低下し、平成15年からは戦後初めて自然増がマイナスに転じた。

出生率を全国と比較すると、図1のように昭和37年頃から全国より低率で推移していたが、54年からは再び高率となり令和6年は全国7位であった。

図1 出生数及び出生率の年次推移

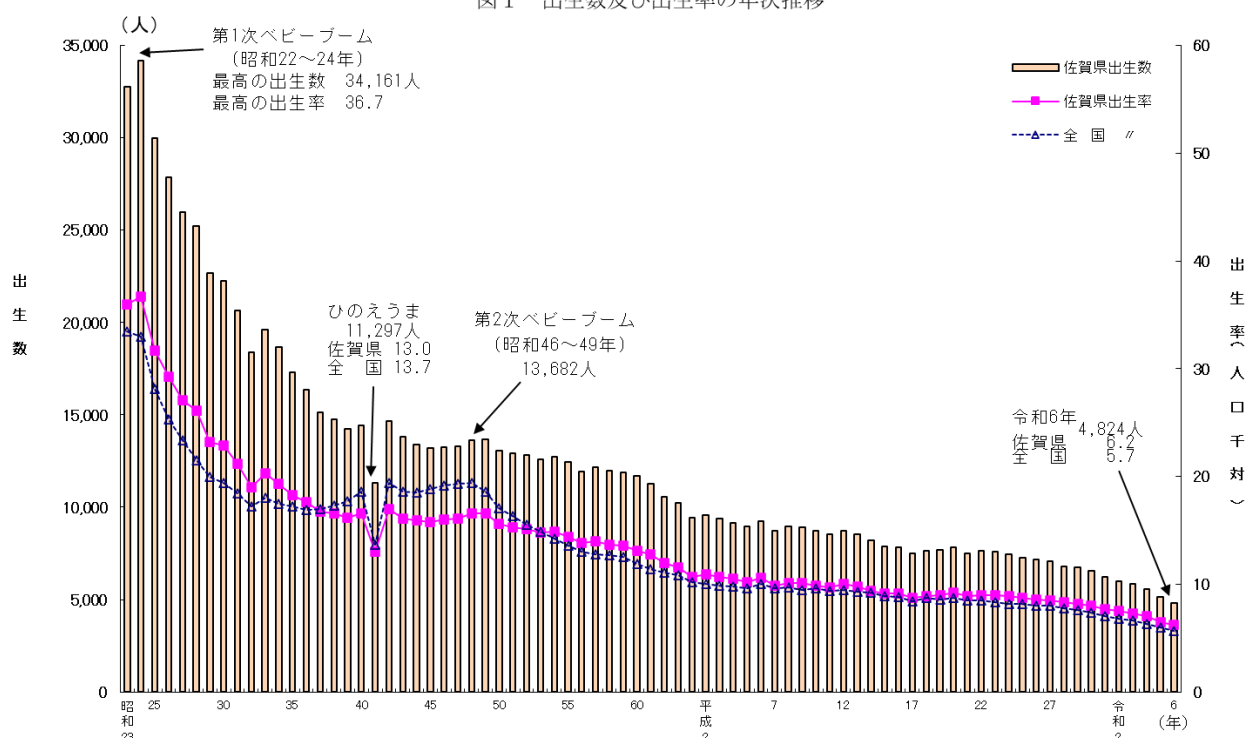


表1 出生率・合計特殊出生率・総再生産率の年次推移

年次	出生率		合計特殊出生率		総再生産率	
	佐賀県	全国	佐賀県	全国	佐賀県	全国
昭和25年	31.7	28.1	...	3.65	...	1.77
30	22.9	19.4	...	2.37	1.45	1.15
35	18.3	17.2	2.35	2.00	1.14	0.97
40	16.6	18.6	2.28	2.14	1.11	1.04
45	15.8	18.8	2.13	2.13	1.01	1.03
50	15.6	17.1	2.03	1.91	0.97	0.93
55	14.4	13.6	1.93	1.75	0.93	0.85
60	13.1	11.9	1.95	1.76	0.94	0.86
平成2年	10.9	10.0	1.75	1.54	0.84	0.75
7	9.9	9.6	1.64	1.42	0.80	0.69
12	10.0	9.5	1.67	1.36	0.80	0.66
17	8.7	8.4	1.48	1.26	0.73	0.62
22	9.0	8.5	1.61	1.39	0.79	0.67
27	8.5	8.0	1.64	1.45	0.79	0.71
令和2年	7.5	6.8	1.59	1.33	0.77	0.65
3	7.3	6.6	1.56	1.30	0.80	0.64
4	7.0	6.3	1.53	1.26	0.77	0.61
5	6.5	6.0	1.46	1.20	0.73	0.59
6	6.2	5.7	1.41	1.15	0.72	0.56

※総再生産率の全国の値は国立社会保障・人口問題研究所『人口統計資料集』を参照

2 合計特殊出生率

図2は、合計特殊出生率と母の年齢（5歳階級）別出生率の年次推移を表す。

これからの人口の動向をみるものとして重要な合計特殊出生率（p.1注：2）の令和6年は、1.41で前年の1.46を下回り、過去最低となった。昭和50年までは2.0台で推移していたが、以後低下傾向である。

また、母の年齢（5歳階級）別出生率は表2のとおりで、令和6年は20～24歳の階級のみ上昇した。

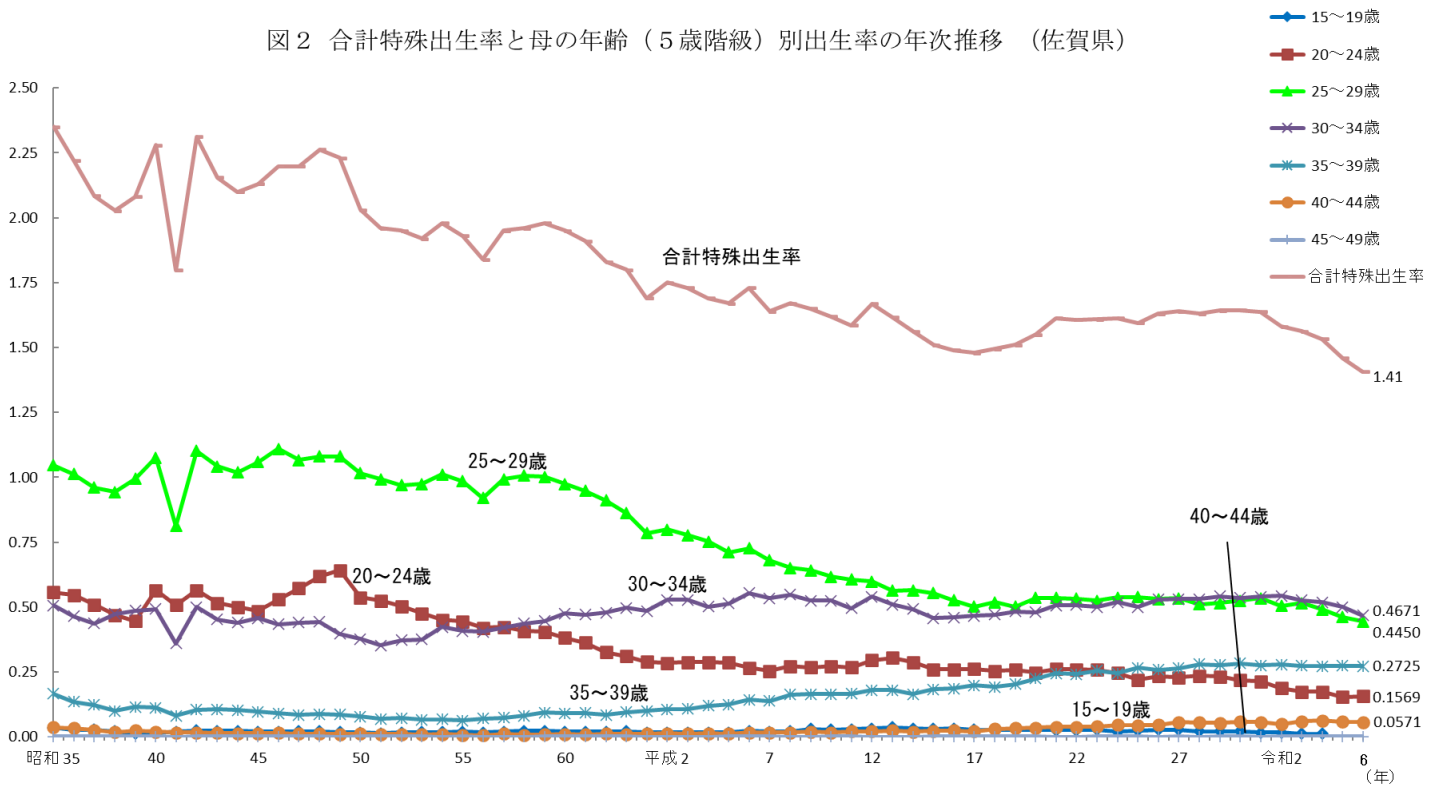


表2 合計特殊出生率と母の年齢（5歳階級）別出生率の年次推移

佐賀県

母の年齢	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年	6年
合計	2.35	2.28	2.13	2.03	1.93	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.59	1.56	1.53	1.46	1.41
15～19歳	0.0352	0.0156	0.0202	0.0160	0.0190	0.0204	0.0163	0.0192	0.0317	0.0273	0.0261	0.0282	0.0167	0.0116	0.0126	0.0108	0.0082
20～24歳	0.5565	0.5652	0.4848	0.5363	0.4443	0.3813	0.2850	0.2544	0.2949	0.2619	0.2621	0.2285	0.1882	0.1738	0.1734	0.1534	0.1569
25～29歳	1.0465	1.0753	1.0584	1.0162	0.9856	0.9743	0.7990	0.6801	0.5994	0.5016	0.5360	0.5337	0.5050	0.5163	0.4906	0.4609	0.4450
30～34歳	0.5067	0.4923	0.4565	0.3763	0.4079	0.4750	0.5272	0.5336	0.5396	0.4668	0.5069	0.5302	0.5430	0.5268	0.5189	0.5000	0.4671
35～39歳	0.1653	0.1126	0.0962	0.0779	0.0625	0.0910	0.1061	0.1385	0.1805	0.1987	0.2439	0.2641	0.2785	0.2737	0.2725	0.2731	0.2725
40～44歳	0.0365	0.0197	0.0143	0.0116	0.0074	0.0108	0.0143	0.0167	0.0214	0.0212	0.0378	0.0571	0.0483	0.0592	0.0631	0.0585	0.0571
45～49歳	0.0015	0.0008	0.0009	0.0006	0.0010	0.0007	0.0004	0.0007	0.0005	0.0005	0.0004	0.0014	0.0006	0.0015	0.0017	0.0017	0.0006

※平成27年以降の国勢調査実施年（5年毎）では、合計特殊出生率の計算方法が異なる。

表3 母の年齢階級別にみた出生数の年次推移

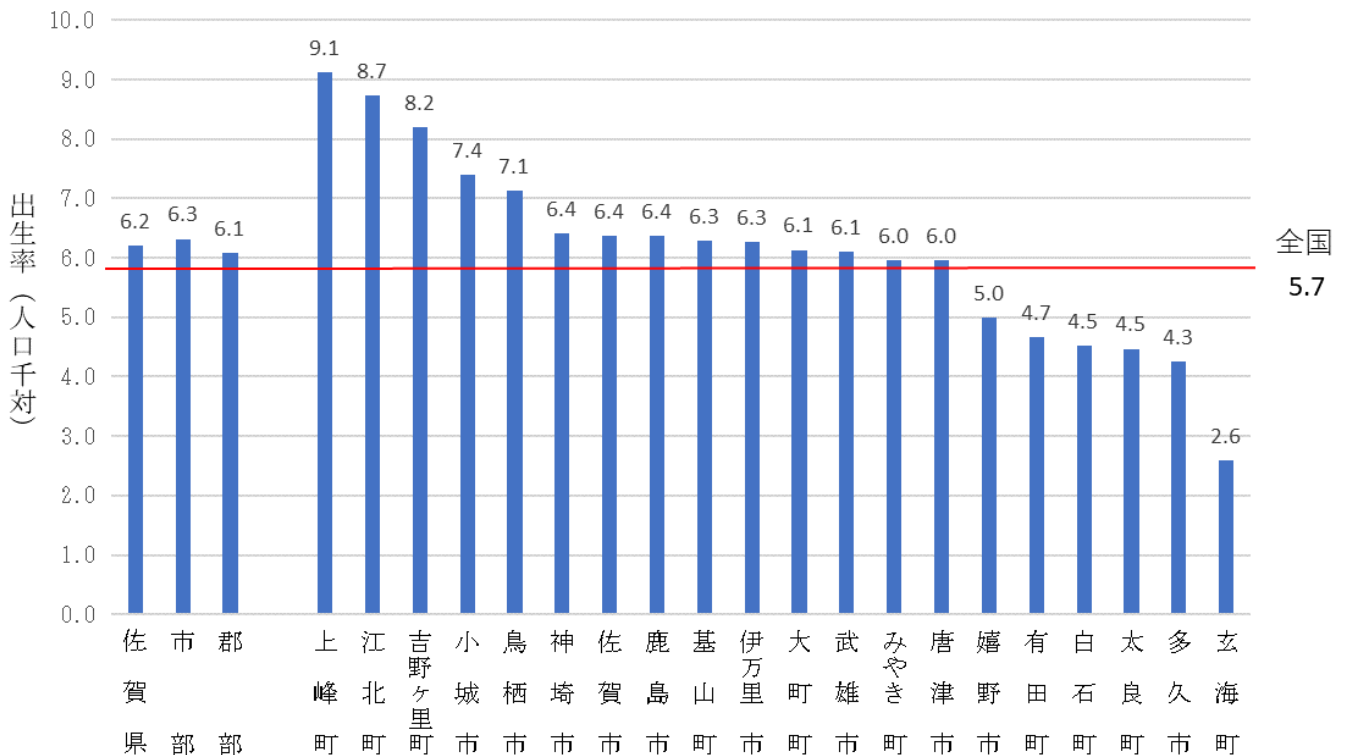
佐賀県

母の年齢(歳)	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年	6年
合計	17 294	14 443	13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 508	7 640	7 064	6 004	5 853	5 552	5 144	4 824
～19	296	147	170	109	119	123	105	119	180	133	111	117	65	45	48	41	31
20～24	4 341	3 730	3 692	3 647	2 630	2 087	1 470	1 422	1 529	1 226	1 037	807	633	591	555	491	502
25～29	7 744	6 452	6 007	6 707	6 578	5 691	4 214	3 490	3 248	2 540	2 449	2 083	1 664	1 652	1 570	1 475	1 335
30～34	3 648	3 249	2 615	2 107	2 738	3 123	2 972	2 787	2 718	2 494	2 542	2 409	2 110	2 002	1 868	1 700	1 588
35～39	1 058	743	609	436	353	616	696	795	944	1 001	1 308	1 333	1 284	1 259	1 199	1 147	1 090
40～44	197	118	89	74	42	61	96	111	123	111	191	308	245	296	303	281	274
45～49	8	4	5	4	6	4	2	5	3	3	2	7	3	8	9	9	3
50～	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
不詳	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3 地域別にみた出生

地域別の出生状況は図3のとおりで、令和6年は上峰町が出生率 9.1 で第1位となった。令和5年と比較して最も出生率が上昇した市町は神埼市で、5.8から6.4に増加した。また、最も出生率が低下した市町は玄海町で、5.0から2.6に低下した。

図3 地域別出生率 令和6年



注：同率であった場合、表示桁数以下の数値により順位を付している。

4 出生順位

出生順位別出生割合の年次推移を図4で見ると、昭和35年には第3子以上が全体の35.3%を占め、続いて第1子35.1%、第2子29.6%であったが、その後第3子以上の割合が急激に減少し、50年には第1子41.2%、第2子37.6%、第3子以上21.2%となった。

昭和55年から平成2年までは第1子はほぼ横ばい、第2子は減少、第3子以上は増加傾向にあった。平成17年以降、第1子は減少、第2子は減少、第3子以上は増加傾向となった。平成14年の44.6%をピークに出生数に占める第1子の割合は低下傾向となり、令和6年は第1子40.2%、第2子34.2%、第3子以上25.6%となった。

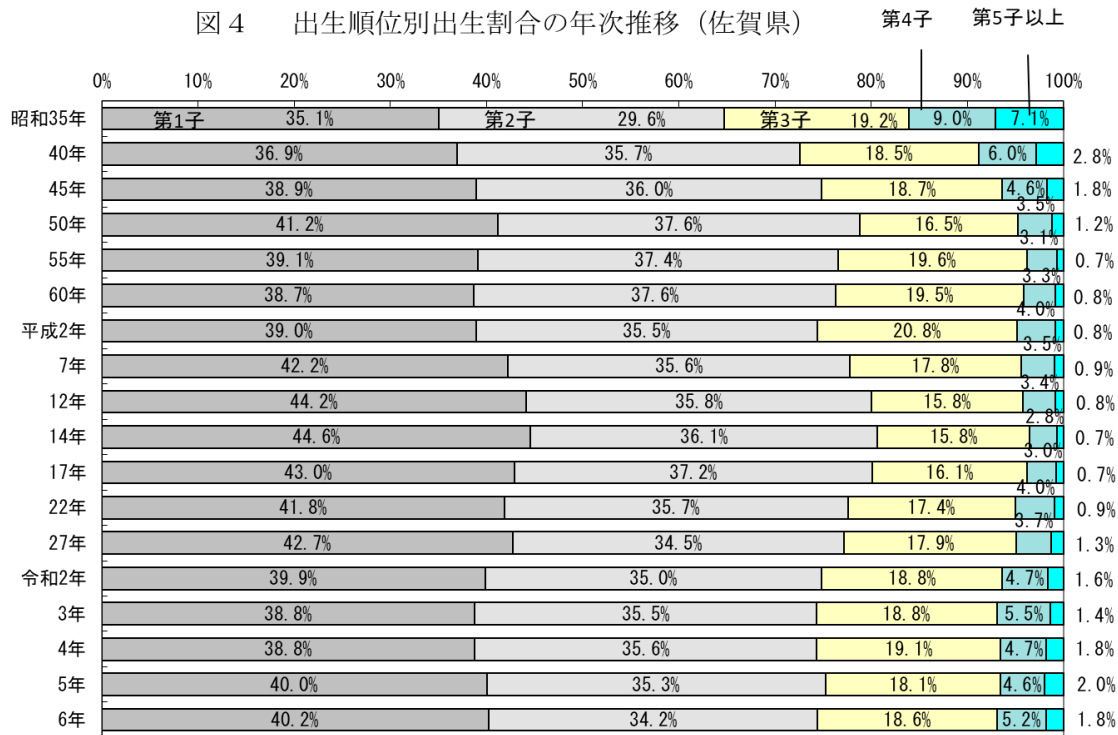


表4 出生順位別にみた出生数の年次推移

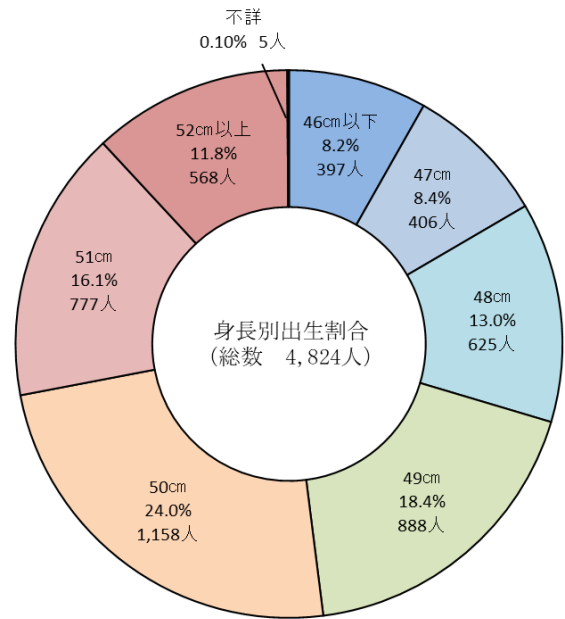
出生順位	佐賀県																
	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年	6年
総数	17 294	14 443	13 187	13 085	12 466	11 705	9 555	8 729	8 745	7 508	7 640	7 064	6 004	5 853	5 552	5 144	4 824
第1子	6 062	5 333	5 129	5 391	4 878	4 531	3 722	3 686	3 862	3 225	3 196	3 018	2 393	2 271	2 154	2 059	1 939
第2子	5 126	5 153	4 745	4 918	4 665	4 406	3 389	3 107	3 134	2 793	2 731	2 436	2 101	2 077	1 974	1 814	1 652
第3子	3 325	2 679	2 469	2 153	2 448	2 282	1 983	1 552	1 380	1 207	1 333	1 261	1 126	1 101	1 062	933	898
第4子	1 559	868	613	464	388	392	382	304	296	227	309	259	285	322	261	237	249
第5子以上	1 222	410	231	159	87	94	79	80	73	56	71	90	99	82	101	101	86

5 出生時の子の身長

令和6年の出生時の平均身長は49.3 cmで、男49.5 cm、女49 cmとなっている。

また、身長別出生割合は図5のとおりで、50 cmが24.0%で最も多く、続いて49 cmが18.4%、51 cmが16.1%となっている。

図5 身長別出生割合 令和6年（佐賀県）



6 出生時の子の体重

令和6年の出生時の平均体重は3.01 kgであり、男3.06 kg、女2.97 kgであった。

2,500 g未満の低体重児の出生割合の年次推移を表5で見ると、昭和45年の6.9%から減少していたが、昭和60年以降増加傾向に転じ、その後概ね9%前後で推移し、令和6年は、8.9%となっている。

また、令和6年における低体重児の性別出生割合は男8.5%、女9.3%であった。

さらに、令和6年の体重別出生割合は図6のとおりであり、3.0 kg以上3.5 kg未満が全体の42.0%を占め、この前後の2.5 kg以上3.0 kg未満、3.5 kg以上4.0 kg未満を合わせると90.4%になる。

図6 体重別出生割合 令和6年（佐賀県）

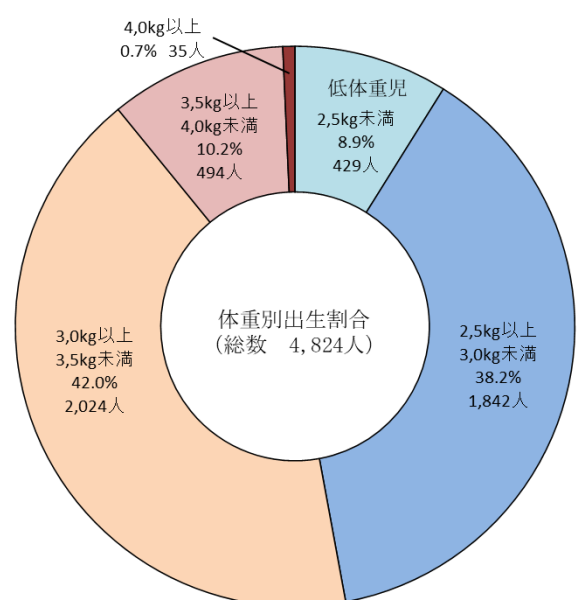


表5 平均体重・低体重児の数と割合の年次推移

佐賀県

年次	平均体重		総 数			男			女		
	男	女	全出生数	2,500g	割合	全出生数	2,500g	割合	全出生数	2,500g	割合
				未満 出生数			未満 出生数			未満 出生数	
	kg	kg	a	b	%			%			%
昭和 45 年	3.19	3.10	13 187	908	6.9	6 920	454	6.6	6 267	454	7.2
50	3.21	3.15	13 085	739	5.6	6 805	384	5.6	6 280	355	5.7
55	3.21	3.14	12 466	680	5.5	6 455	323	5.0	6 011	357	5.9
60	3.18	3.11	11 705	715	6.1	6 032	349	5.8	5 673	366	6.5
平成 2 年	3.15	3.07	9 555	642	6.7	4 970	305	6.1	4 585	337	7.4
7	3.12	3.03	8 729	664	7.6	4 473	327	7.3	4 256	337	7.9
12	3.10	3.01	8 745	750	8.6	4 578	348	7.6	4 167	402	9.6
17	3.05	2.97	7 508	718	9.6	3 783	311	8.2	3 725	407	10.9
22	3.04	2.96	7 640	749	9.8	3 943	351	8.9	3 697	398	10.8
23	3.05	2.98	7 613	693	9.1	3 890	323	8.3	3 723	370	9.9
24	3.06	2.97	7 440	676	9.1	3 817	302	7.9	3 623	374	10.3
25	3.06	2.97	7 276	707	9.7	3 690	328	8.9	3 586	379	10.6
26	3.04	2.96	7 159	675	9.4	3 667	312	8.5	3 492	363	10.4
27	3.06	2.98	7 064	645	9.1	3 662	308	8.4	3 402	337	9.9
令和 2 年	3.07	2.99	6 004	546	9.1	3 091	273	8.8	2 913	273	9.4
3	3.06	3.02	5 853	539	9.2	2 957	229	7.7	2 896	310	10.7
4	3.06	2.99	5 552	484	8.7	2 825	226	8.0	2 727	258	9.5
5	3.06	2.97	5 144	494	9.6	2 642	221	8.4	2 502	273	10.9
6	3.06	2.97	4 824	429	8.9	2 436	206	8.5	2 388	223	9.3

第2章 死 亡

1 死亡の動き

令和6年の本県の死亡数は11,381人で、46分19秒に1人の割合で亡くなったことになり、前年より182人増加し、死亡率（人口千対）は14.6で前年を0.4上回った。

本県の死亡率の年次推移は図1のとおりで、戦後は医薬の進歩、公衆衛生の発展によって、およそ10年間に死亡率が半減する低下傾向をみせたが、昭和30年代に入ってから、おおむね横ばい状態となっていた。しかし近年は高齢化の進展に伴い、死亡率が上昇してきている。

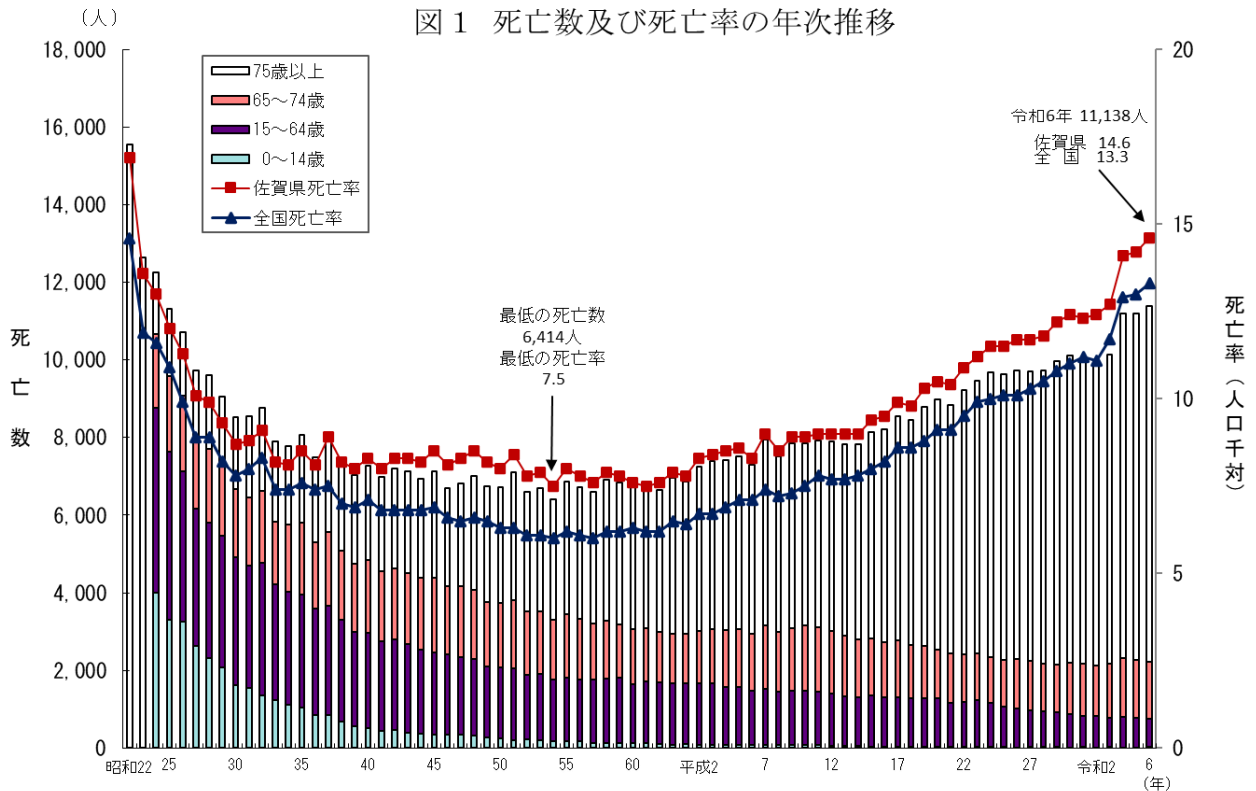


表1 粗死亡率・年齢調整死亡率の年次推移

本県の死亡率を全国と比べると、各年次とも平均をかなり上回っているが、その主な原因は高齢人口の割合が高いことによる。

一般に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（平成27年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率でみるべきである。表1のとおり、本県の年齢調整死亡率はいずれの年も粗死亡率を下回り、全国の粗死亡率も下回っている。

年次	佐 賀 県		全 国 粗死亡率	
	粗死亡率	年齢調整 死亡率		
昭和	35年	8.5	7.7	7.6
	40年	8.3	7.3	7.1
	45年	8.5	7.1	6.9
	50年	8.0	6.4	6.3
	55年	8.0	6.3	6.2
	60年	7.6	6.2	6.3
平成	2年	8.3	6.8	6.7
	7年	9.0	7.5	7.4
	12年	9.0	7.7	7.7
	17年	9.9	8.5	8.6
	22年	10.9	9.4	9.5
	27年	11.7	10.2	10.3
令和	2年	12.4	9.6	11.1
	3年	12.7	9.7	11.7
	4年	14.1	10.5	12.9
	5年	14.2	10.5	13.0
	6年	14.6	10.6	13.3

注：基準人口は平成27年モデル人口（平成27年の国勢調査人口を基に補正した人口）を用いた。

2 季節別にみた死亡

図2により死亡率の季節変動をみると、令和6年は前年とおおむね同じ傾向にあった。1月から6月にかけて低下し、7月から8月に上昇した。そして9月に一旦減少したものの、12月にかけて再び上昇した。

また、表2は主な死因別死亡率を月別にみたものである。表中の全18死因のうち11の死因で、1月～3月と気温の低い時期に死亡率が最も高くなった。

図2 死亡率の季節変動（佐賀県）

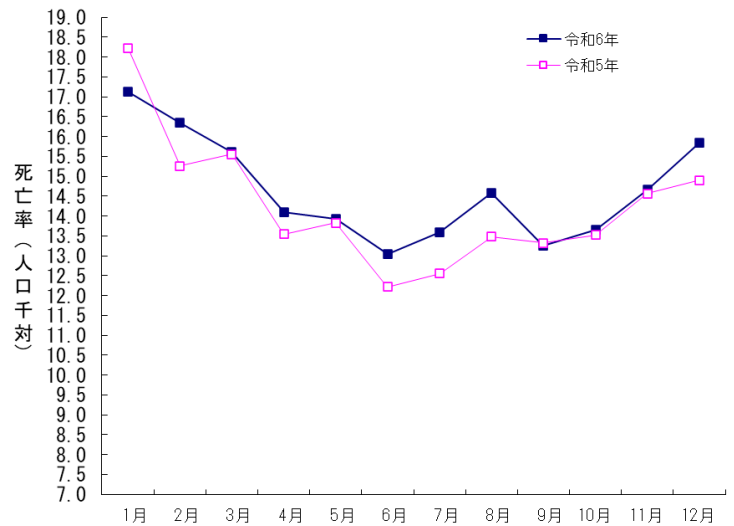


表2 主な死因別・月別死亡率（人口10万対）

令和6年(2024)佐賀県

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	1464.7	1712.5	1635.7	1562.0	1410.0	1393.4	1304.8	1358.4	1457.2	1325.2	1366.0	1466.5	1584.8
悪性新生物<腫瘍>	341.7	363.2	326.5	372.3	340.7	349.5	320.3	328.2	316.1	339.2	338.8	347.0	357.1
心疾患 (高血圧性を除く)	185.2	246.2	209.5	211.2	197.8	176.3	180.6	155.0	151.9	138.2	174.7	174.3	206.7
老衰	174.3	206.7	178.7	197.5	158.6	156.5	142.9	145.9	170.2	179.0	167.1	194.7	193.0
肺炎	99.5	118.5	138.1	98.8	95.8	83.6	80.1	88.1	103.3	86.4	85.1	109.9	107.9
脳血管疾患	83.5	127.6	84.5	69.9	67.5	100.3	64.4	74.5	66.9	78.5	98.8	81.6	86.6
誤嚥性肺炎	73.5	62.3	91.0	66.9	76.9	69.9	76.9	62.3	72.9	80.1	74.5	73.8	76.0
不慮の事故	36.3	50.1	45.5	36.5	26.7	22.8	28.3	47.1	36.5	37.7	36.5	34.5	33.4
新型コロナウイルス感染症	35.5	53.2	79.6	39.5	29.8	15.2	22.0	56.2	72.9	22.0	13.7	6.3	16.7
腎不全	30.8	22.8	37.4	27.4	34.5	36.5	25.1	25.8	34.9	25.1	31.9	37.7	30.4
アルツハイマー病	23.3	16.7	21.1	24.3	20.4	19.8	34.5	30.4	18.2	25.1	24.3	17.3	27.4
間質性肺疾患	18.8	19.8	21.1	22.8	17.3	10.6	18.8	16.7	15.2	20.4	10.6	26.7	25.8
血管性及び詳細不明の認知症	17.2	22.8	16.2	25.8	22.0	13.7	11.0	16.7	18.2	15.7	15.2	17.3	12.2
大動脈瘤及び解離	15.7	24.3	14.6	12.2	15.7	4.6	9.4	12.2	15.2	11.0	28.9	22.0	18.2
肝疾患	15.4	18.2	19.5	15.2	17.3	22.8	12.6	4.6	18.2	6.3	18.2	20.4	12.2
糖尿病	13.8	13.7	27.6	18.2	7.9	13.7	11.0	7.6	13.7	11.0	13.7	22.0	6.1
自殺	12.1	10.6	14.6	7.6	17.3	9.1	11.0	21.3	6.1	15.7	13.7	9.4	9.1
結核	0.6	3.0	-	1.5	-	-	-	1.5	-	1.6	-	-	-
(再掲)交通事故	3.0	4.6	4.9	-	1.6	-	1.6	7.6	1.5	3.1	7.6	1.6	1.5

注：各月の率は年率に換算したものである。

$$\text{月別死亡率} = \frac{\text{月間の死因別死亡数}}{\text{日本人人口} \times \frac{\text{月間日数}}{\text{年間日数}}} \times 100,000$$

3 地域別にみた死亡

死亡率を市町別にみたものが表3、図3である。

一般的に、異なる地域の比較にあたっては、一定の基準人口（平成27年モデル人口）にあてはめて調整した年齢調整死亡率を用いるが、これによると、粗死亡率ほどには地域差は目立たない。

年齢調整死亡率を地域別に比較すると、市部では唐津市が11.8で最高、神埼市が9.4で最低となっている。郡部では吉野ヶ里町が11.7と最高で、江北町が8.9で最低となっている。

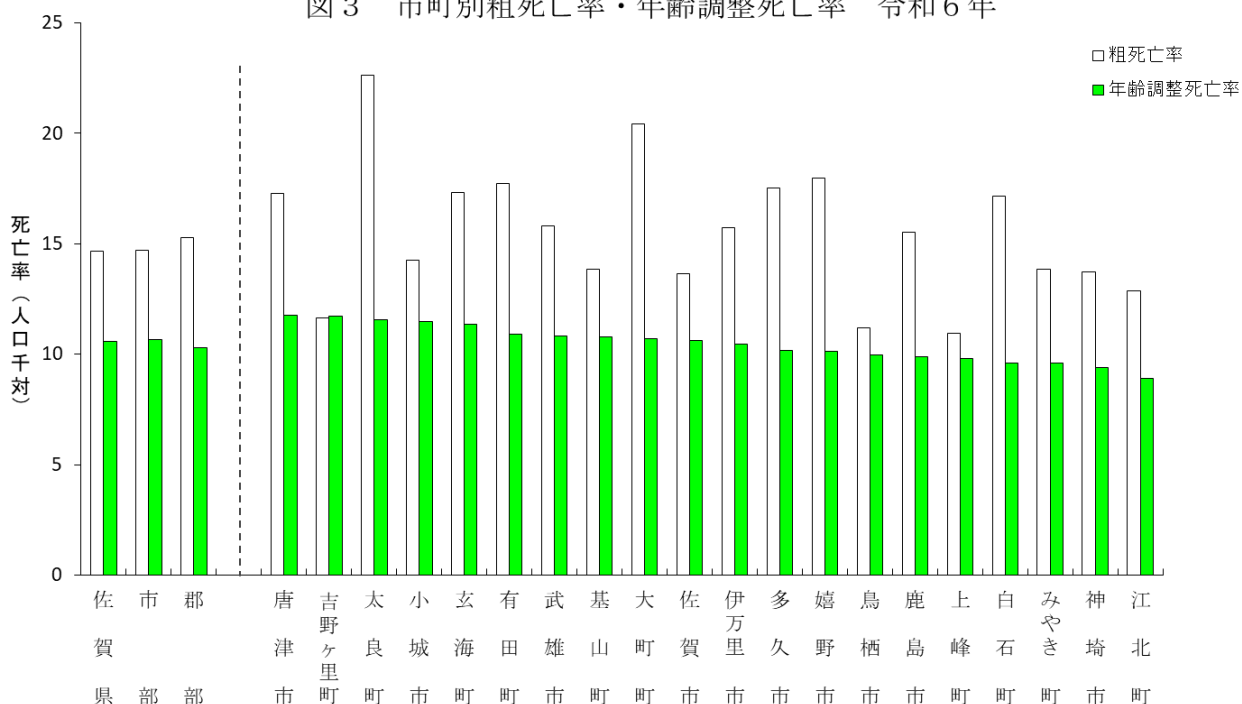
また、保健所別にみると唐津保健所が11.7と最高で、最低は鳥栖保健所が9.9となっている。

表3 粗死亡率・年齢調整死亡率－保健所・市町別（人口千対）
令和6年（2024）

保健所別 市 郡 別	粗死亡率	年齢調整 死亡率	保健所別 市 郡 別	粗死亡率	年齢調整 死亡率
佐 賀 県	14.6	10.6	唐 津 保 健 所	17.3	11.7
市 部	14.7	10.7	唐 津 市	17.3	11.8
郡 部	15.3	10.3	東 松 浦 郡	17.3	11.4
			玄 海 町	17.3	11.4
佐賀中部保健所	13.8	10.6	伊 万 里 保 健 所	16.3	10.6
佐 賀 市	13.7	10.6	伊 万 里 市	15.7	10.5
多 久 市	17.5	10.2	西 松 浦 郡	17.7	10.9
小 城 市	14.2	11.5	有 田 町	17.7	10.9
神 埼 市	13.7	9.4	杵 藤 保 健 所	16.7	10.2
神 埼 郡	11.7	11.7	武 雄 市	15.8	10.8
吉野ヶ里町	11.7	11.7	鹿 島 市	15.5	9.9
鳥 栖 保 健 所	12.1	9.9	嬉 野 市	18.0	10.1
鳥 栖 市	11.2	10.0	杵 島 郡	16.6	9.7
三 養 基 郡	13.3	10.0	大 町 町	20.4	10.7
基 山 町	13.9	10.8	江 北 町	12.9	8.9
上 峰 町	11.0	9.8	白 石 町	17.2	9.6
み や き 町	13.9	9.6	藤 津 郡	22.6	11.6
			太 良 町	22.6	11.6

注：基準人口は平成27年モデル人口（平成27年の国勢調査人口を基に補正した人口）を用いた。

図3 市町別粗死亡率・年齢調整死亡率 令和6年



4 年齢階級別にみた死亡

死亡率を年齢階級別にみると図4、表4のとおりである。

出生後まもなくは環境に対する適応性が備わっていないため死亡率はやや高く、5～9歳、10～14歳、15～19歳で低くなる。その後74歳ごろまでは緩やかに上昇し、以後は急速に上昇しているが、近年この年齢が次第に高くなっている。

年齢と死因については表5のとおりである。15～34歳では、「自殺」が単独で死因の第1位となっており、「不慮の事故」も含む疾病以外の死因が大きな割合を占めている。

また、35～89歳では「悪性新生物」が死因の第1位となっているが、若年層でも上位に含まれる死因となっている。

図4 年齢階級別死亡率の年次比較 佐賀県

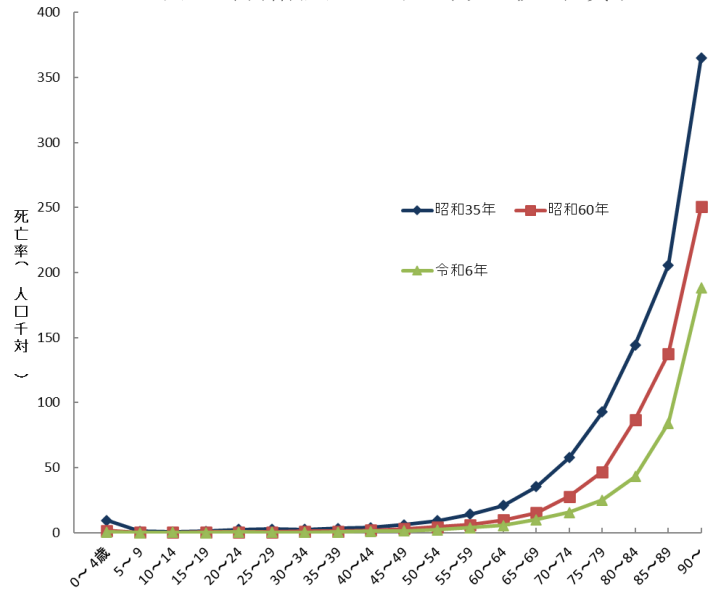


表4 年齢階級別死亡率（人口千対）の年次推移

年齢階級	佐賀県																	全国
	昭和35年	40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年	3年	4年	5年	令和6年	令和6年
総数	8.5	8.3	8.5	8.0	8.0	7.8	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	12.4	12.7	14.1	14.2	14.6	13.3
0～4歳	9.4	6.0	4.5	2.9	2.1	1.7	1.2	1.3	0.9	0.4	0.7	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5	0.6	0.5
5～9	1.0	0.6	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
10～14	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1
15～19	1.2	1.0	0.8	0.4	0.4	0.4	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
20～24	2.4	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4	0.5	0.3	0.3	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4
25～29	2.6	2.0	1.3	1.0	0.8	0.5	0.6	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
30～34	2.4	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	0.6	0.8	0.8	0.6	0.5	0.4	0.3	0.6	0.5	0.5	0.2	0.5
35～39	3.2	2.4	2.0	1.7	1.5	1.0	1.3	0.9	1.1	0.9	0.8	0.6	0.6	0.6	0.5	0.7	0.6	0.6
40～44	3.8	3.5	2.8	2.9	2.1	1.8	1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.0	0.9	0.9	0.8	1.0	1.0	0.9
45～49	6.1	5.6	4.8	3.8	3.1	3.0	2.4	2.1	2.3	2.2	2.0	1.8	1.5	1.3	1.6	1.3	1.2	1.5
50～54	9.2	7.6	6.3	5.4	5.1	4.5	4.1	4.0	4.2	3.4	3.1	2.7	2.2	2.4	2.2	2.5	2.1	2.3
55～59	14.2	12.6	10.0	8.5	7.1	6.0	6.3	5.9	5.4	5.3	4.2	3.7	3.7	3.6	4.1	3.4	3.8	3.6
60～64	20.8	18.8	16.9	13.2	11.6	9.7	10.0	9.4	7.8	7.3	6.6	6.1	5.8	5.2	5.7	5.4	5.5	5.6
65～69	35.4	32.7	28.5	21.1	19.2	15.2	13.2	14.5	13.0	11.5	9.7	9.2	8.3	8.7	8.6	9.5	9.9	9.1
70～74	57.6	49.0	46.4	36.9	33.0	27.9	23.1	21.5	19.6	18.5	16.3	14.5	13.2	13.4	15.8	15.6	15.5	15.4
75～79	92.7	80.5	79.4	66.3	58.1	46.8	43.1	38.5	31.4	30.8	26.8	24.1	22.4	24.1	24.0	22.9	25.0	23.9
80～84	144.3	142.8	126.7	110.2	98.5	86.9	72.2	70.1	53.9	47.8	47.4	45.3	41.3	38.3	42.6	44.0	43.2	43.2
85～89	205.6	206.6	205.2	169.4	159.1	137.6	125.5	117.4	99.5	88.1	85.0	78.3	75.3	77.3	80.2	81.9	84.3	81.6
90～	365.0	263.6	276.5	277.4	266.6	250.5	235.8	205.1	173.6	167.6	176.0	175.0	162.6	169.6	194.0	188.7	188.4	182.9
(再掲)																		
85～	232.0	217.2	220.7	193.0	182.8	164.3	155.3	143.6	124.4	118.7	118.2	114.7	112.6	116.6	129.3	128.9	131.3	123.8

表5 年齢階級別死因順位

令和6年(2024)佐賀県

年齢階級	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %	死因	実数	割合 %
総数	悪性新生物<腫瘍>	2 655	23.3	心疾患(高血圧性を除く)	1 439	12.6	老衰	1 354	11.9	肺炎	773	6.8	脳血管疾患	649	5.7
0歳	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	3	23.1	その他の新生物<腫瘍>	1	7.7									
	先天奇形、変形及び染色体異常	3	23.1	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	1	7.7									
1~4	急性気管支炎	1	25.0												
	ヘルニア及び腸閉塞	1	25.0												
	皮膚及び皮下組織の疾患	1	25.0												
	先天奇形、変形及び染色体異常	1	25.0												
5~9	心疾患(高血圧性を除く)	1	100.0												
10~14	腸管感染症	1	16.7												
	悪性新生物<腫瘍>	1	16.7												
	不慮の事故	1	16.7												
	自殺	1	16.7												
15~19	自殺	2	66.7	悪性新生物<腫瘍>	1	33.3									
20~24	自殺	5	33.3	悪性新生物<腫瘍>	4	26.7	不慮の事故	2	13.3	脳血管疾患	1	6.7			
25~29	自殺	3	30.0	悪性新生物<腫瘍>	1	10.0									
				肝疾患	1	10.0									
				糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患	1	10.0									
				不慮の事故	1	10.0									
30~34	自殺	4	50.0	悪性新生物<腫瘍>	1	12.5									
			不慮の事故	1	12.5										
35~39	悪性新生物<腫瘍>	10	41.7	自殺	6	25.0	心疾患(高血圧性を除く)	2	8.3	糖尿病	1	4.2			
									脳血管疾患	1	4.2				
									肺炎	1	4.2				
									不慮の事故	1	4.2				
40~44	悪性新生物<腫瘍>	14	29.2	自殺	9	18.8	脳血管疾患	6	12.5	心疾患(高血圧性を除く)	5	10.4	大動脈瘤及び解離	2	4.2
												不慮の事故	2	4.2	
45~49	悪性新生物<腫瘍>	21	34.4	自殺	7	11.5	心疾患(高血圧性を除く)	4	6.6	ヘルニア及び腸閉塞	3	4.9	肺炎	2	3.3
							脳血管疾患	4	6.6	肝疾患	3	4.9			
50~54	悪性新生物<腫瘍>	38	35.8	心疾患(高血圧性を除く)	14	13.2	脳血管疾患	9	8.5	肝疾患	7	6.6	自殺	5	4.7
55~59	悪性新生物<腫瘍>	75	41.9	心疾患(高血圧性を除く)	13	7.3	脳血管疾患	10	5.6	不慮の事故	7	3.9	肝疾患	6	3.4
			自殺	13	7.3										
60~64	悪性新生物<腫瘍>	123	45.4	脳血管疾患	27	10.0	心疾患(高血圧性を除く)	19	7.0	肝疾患	10	3.7	自殺	7	2.6
65~69	悪性新生物<腫瘍>	236	44.7	心疾患(高血圧性を除く)	41	7.8	脳血管疾患	35	6.6	不慮の事故	19	3.6	誤嚥性肺炎	11	2.1
												自殺	11	2.1	
70~74	悪性新生物<腫瘍>	375	40.1	心疾患(高血圧性を除く)	70	7.5	脳血管疾患	51	5.4	肺炎	34	3.6	誤嚥性肺炎	22	2.4
												不慮の事故	22	2.4	
75~79	悪性新生物<腫瘍>	461	37.1	心疾患(高血圧性を除く)	109	8.8	脳血管疾患	80	6.4	肺炎	57	4.6	誤嚥性肺炎	39	3.1
80~84	悪性新生物<腫瘍>	433	27.0	心疾患(高血圧性を除く)	167	10.4	老衰	98	6.1	肺炎	97	6.1	誤嚥性肺炎	93	5.8
85~89	悪性新生物<腫瘍>	394	17.7	心疾患(高血圧性を除く)	312	14.0	老衰	244	11.0	肺炎	210	9.4	脳血管疾患	139	6.2
90~	老衰	977	23.8	心疾患(高血圧性を除く)	682	16.6	悪性新生物<腫瘍>	467	11.4	肺炎	352	8.6	誤嚥性肺炎	265	6.5

注: 1) 0歳については「乳児死因順位に用いる分類項目」、それ以外については「死因順位に用いる分類項目」を使用した。
死因順位は死亡数の多いものからとし、死亡数が同数の場合は同一順位に死因名を列記した。
2) 割合については、各年齢階級別の死亡総数に対する割合である。

5 死因別にみた死亡

死因順位は、明治から昭和の戦前にかけて上位を占めていた結核、肺炎及び気管支炎、胃腸炎などの感染性疾患が戦後は次第に後退し、代わって生活習慣が深く関わる疾病が上位を占めるようになってきた。

平成27年以降は悪性新生物、心疾患、老衰、肺炎、脳血管疾患が上位5位を占めており、令和6年も同様であった。

表6 死因順位の年次推移（人口10万対）

佐賀県

年次	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
昭和 25 年	結核	140.2	脳血管疾患	107.9	悪性新生物	91.8	老衰	77.2	心疾患	69.7
30	脳血管疾患	134.5	悪性新生物	98.5	老衰	74.5	心疾患	63.6	結核	61.0
35	脳血管疾患	166.6	悪性新生物	125.5	心疾患	71.3	老衰	67.8	肺炎及び気管支炎	50.3
40	脳血管疾患	194.1	悪性新生物	140.3	心疾患	81.3	老衰	59.6	不慮の事故及び有害作用	52.0
45	脳血管疾患	199.4	悪性新生物	149.9	心疾患	110.3	不慮の事故及び有害作用	53.3	老衰	48.5
50	脳血管疾患	183.7	悪性新生物	163.5	心疾患	120.8	不慮の事故及び有害作用	40.2	肺炎及び気管支炎	36.7
55	悪性新生物	178.9	脳血管疾患	162.0	心疾患	141.0	肺炎及び気管支炎	41.0	老衰	34.1
60	悪性新生物	192.2	心疾患	138.2	脳血管疾患	130.8	肺炎及び気管支炎	57.1	不慮の事故及び有害作用	30.1
平成 2 年	悪性新生物	227.3	心疾患	157.8	脳血管疾患	118.2	肺炎及び気管支炎	73.7	不慮の事故及び有害作用	38.1
7	悪性新生物	262.9	脳血管疾患	137.6	心疾患	127.5	肺炎	98.4	不慮の事故	39.3
12	悪性新生物	282.9	心疾患	125.8	脳血管疾患	119.7	肺炎	94.4	不慮の事故	39.7
17	悪性新生物	313.9	心疾患	145.1	脳血管疾患	115.8	肺炎	102.4	不慮の事故	40.3
22	悪性新生物	320.7	心疾患	162.0	肺炎	133.0	脳血管疾患	106.6	不慮の事故	38.8
27	悪性新生物	325.5	心疾患	152.1	肺炎	133.1	脳血管疾患	100.9	老衰	62.4
令和 2 年	悪性新生物	334.1	心疾患	184.9	老衰	109.5	肺炎	88.3	脳血管疾患	85.4
3	悪性新生物	336.1	心疾患	186.0	老衰	110.1	肺炎	88.9	脳血管疾患	85.9
4	悪性新生物	348.5	心疾患	197.6	老衰	144.9	脳血管疾患	88.8	肺炎	87.6
5	悪性新生物	340.2	心疾患	191.5	老衰	154.7	肺炎	91.6	脳血管疾患	88.3
6	悪性新生物	341.7	心疾患	185.2	老衰	174.3	肺炎	99.5	脳血管疾患	83.5

注：1) 心疾患は高血圧性を除く。

2) 平成29年から「ICD-10（2013年版）」を適用。

6 主な死因

令和6年の主な死因について、前年と比較してみると表7のとおりである。死亡率をみると、心疾患は前年の191.5から185.2と最も大きく減少し、老衰は前年の154.7から174.3と最も大きく増加した。

また、令和6年の主な死因別死亡率を全国比較したものが図5である。特に本県の肺炎による死亡率は、全国の66.6を32.9上回る99.5となった。

表7 主な死因順位別死亡数・死亡率（人口10万対） 佐賀県

死因 順位 (R6年)	死 因	死亡数		死亡率		死亡割合		全国(令和6年)		全国順位(率)	
		令和 6年	令和 5年	令和 6年	令和 5年	令和 6年	令和 5年	死亡率	死亡割合	令和 6年	令和 5年
	全 死 因	11 381	11 199	1464.7	1424.8	100.0	100.0	1334.5	100.0	24	26
1	悪性新生物	2 655	2 674	341.7	340.2	23.3	23.9	319.3	23.9	20	19
2	心 疾 患	1 439	1 505	185.2	191.5	12.6	13.4	188.2	14.1	40	37
3	老 衰	1 354	1 216	174.3	154.7	11.9	10.9	172.0	12.9	33	34
4	肺 炎	773	720	99.5	91.6	6.8	6.4	66.6	5.0	8	9
5	脳血管疾患	649	694	83.5	88.3	5.7	6.2	85.5	6.4	35	33
6	誤嚥性肺炎	571	445	73.5	56.6	5.0	4.0	52.9	4.0	6	18
7	不慮の事故	282	277	36.3	35.2	2.5	2.5	38.0	2.8	36	38
8	新型コロナウイルス 感染症	276	294	35.5	37.4	2.4	2.6	29.8	2.2	19	18
9	腎 不 全	239	210	30.8	26.7	2.1	1.9	24.7	1.8	17	25
10	アルツハイマー病	181	207	23.3	26.3	1.6	1.8	21.3	1.6	30	24
	そ の 他	2 962	2 957	381.2	376.2	26.0	26.4	336.2	25.2

図5 主な死因別死亡率の全国比較 令和6年

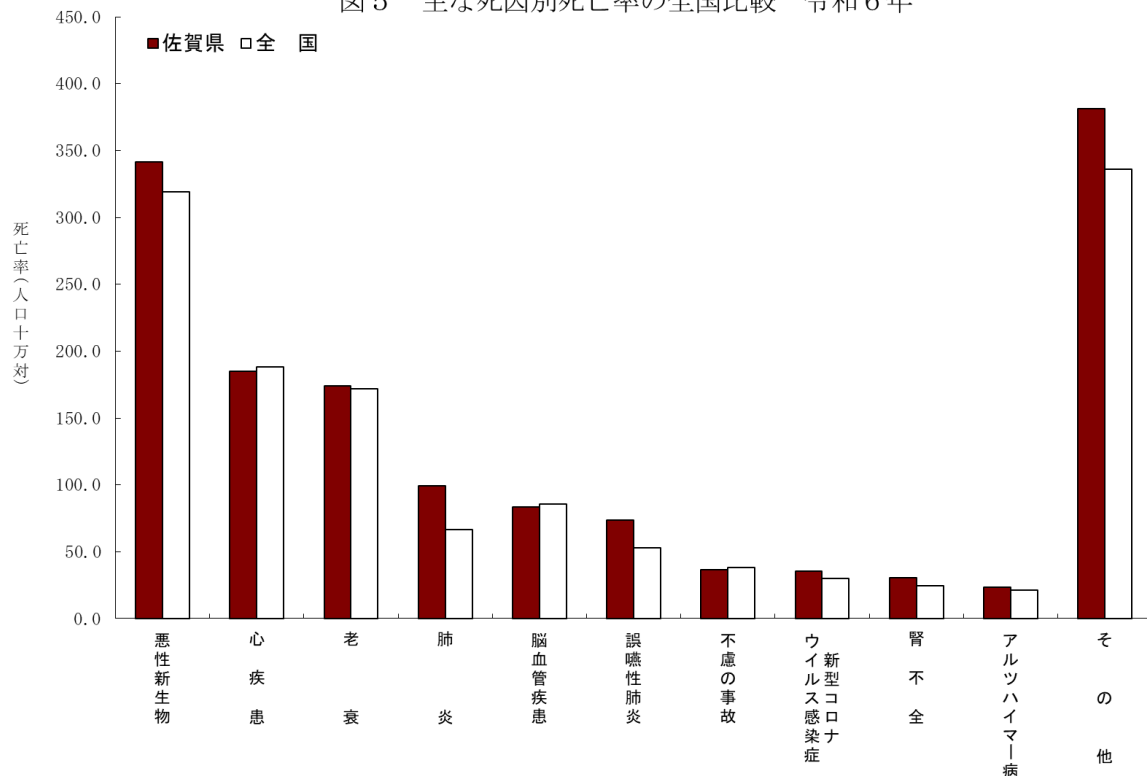
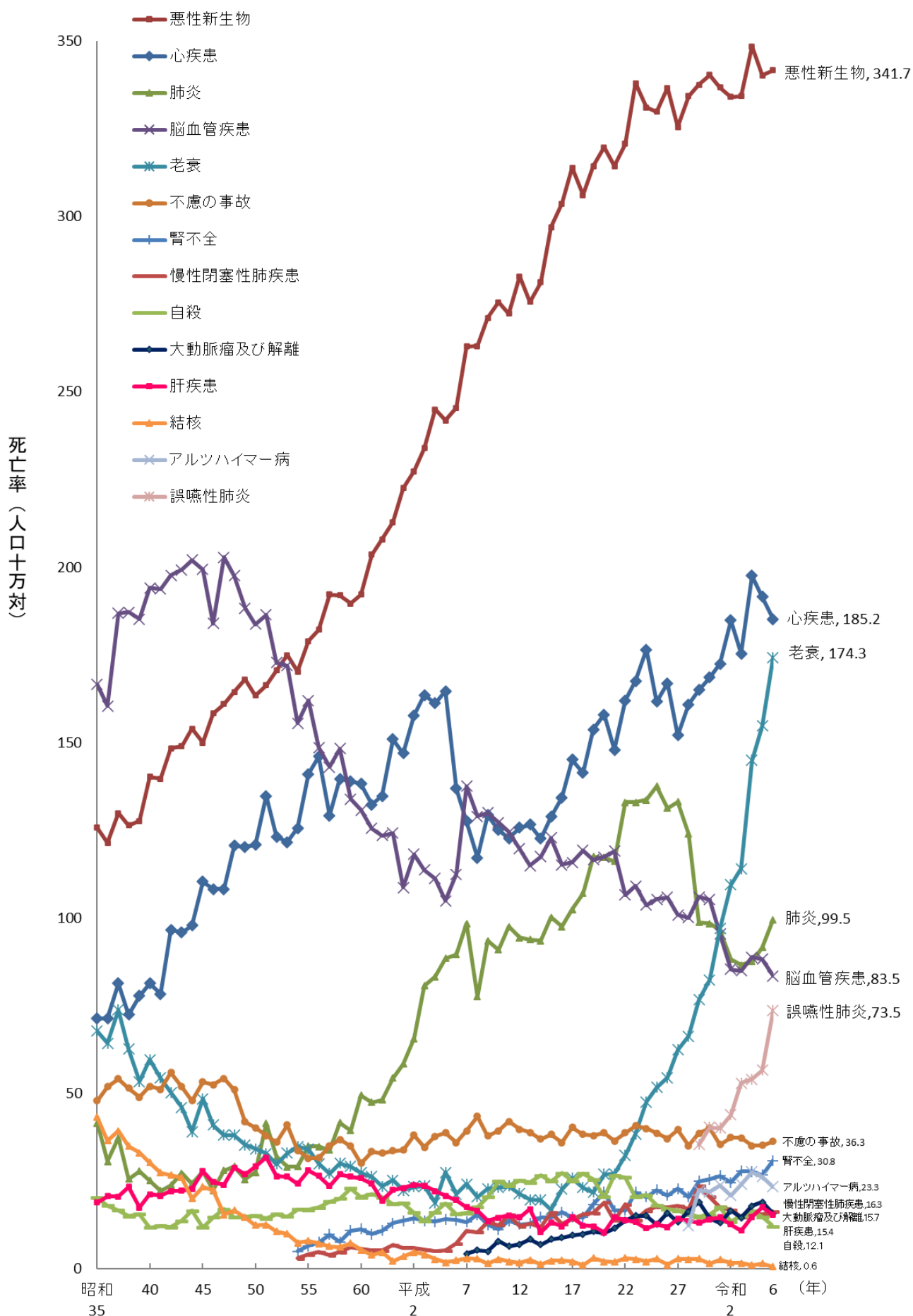


図6 死因別死亡率年次推移 (佐賀県)



(1) 悪性新生物

死因別死亡率の年次推移は図6のとおりであり、悪性新生物による死亡率が最も高い状況が、昭和53年以降続いている。死亡率がわずかに低下する年があるものの、他の疾病と違って確実に上昇している。

令和6年の死亡率は341.7であり、全国順位は20位であった（表7参照）。

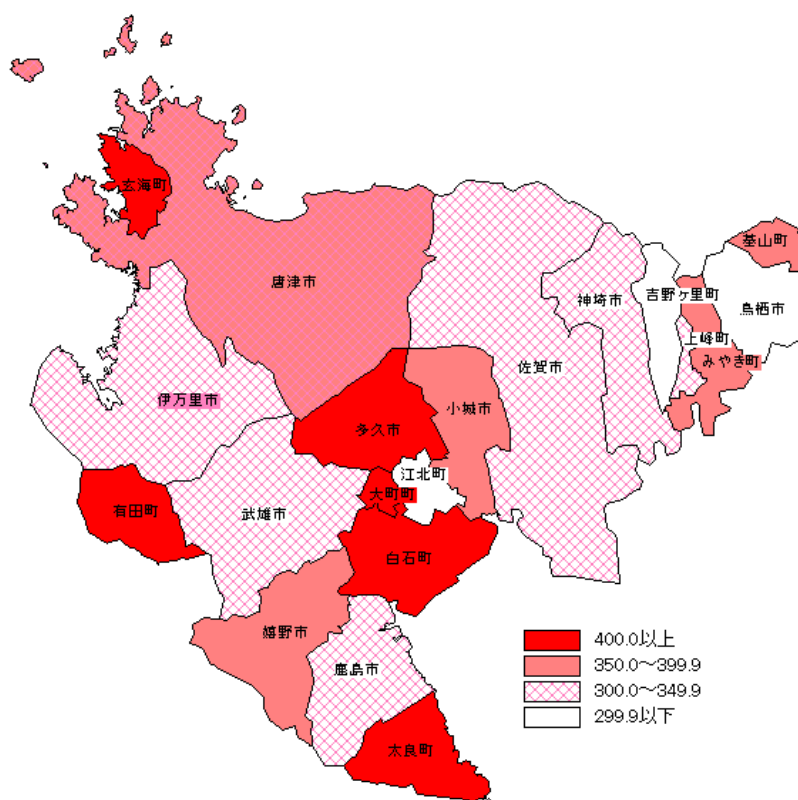
年齢別にみると、主に35歳から89歳までの各年齢層において死因順位の1位であり（表5参照）、総死亡数に占める割合は23.3%と最も高くなっている。

市町別死亡率を表8、図7で見ると、最高は前年に引き続き大町町の510.8で、太良町487.6と続いている。また、最低は吉野ヶ里町の220.5で、次いで江北町の276.9となっている。

表8 市町別悪性新生物死亡率

令和6年(2024)	
市町別	死亡率 (人口10万対)
佐賀県	341.7
大町町	510.8
太良町	487.6
多久市	448.7
玄海町	438.2
有田町	437.9
白石町	437.7
嬉野市	399.8
唐津市	393.0
みやき町	369.5
基山町	355.5
小城市	353.0
神埼市	344.7
鹿島市	343.1
伊万里市	336.3
武雄市	323.3
佐賀市	317.5
上峰町	304.0
鳥栖市	278.8
江北町	276.9
吉野ヶ里町	220.5

図7 市町別悪性新生物死亡率（令和6年）



また、悪性新生物の部位別死亡は表9、図8のとおりである。

本県について男女別にみると、男性の1位は「気管、気管支及び肺」、2位は「胃」、3位は「結腸」であり、女性の1位は「結腸」、2位は「気管、気管支及び肺」、3位は「膵」となっている。

死亡率を全国と比較すると、特に「肝及び肝内胆管」は総数1.6倍、男性1.5倍、女性1.8倍となっており、総数の全国順位は平成30年以來の1位となった。

表9 悪性新生物の部位別死亡数・率・割合

令和6年(2024)

	死亡数	死亡率(人口10万対)						死亡割合(%)				全国順位(総数)		
		佐賀県			全 国			佐賀県		全 国				
		総数	男	女	総数	男	女	男	女	男	女			
総数	2 655	1 526	1 129	341.7	413.6	276.7	319.3	379.4	262.5	100.0	100.0	100.0	100.0	20
食 道	51	40	11	6.6	10.8	2.7	8.8	14.7	3.3	2.6	1.0	3.9	1.3	44
胃	245	153	92	31.5	41.5	22.5	31.5	42.3	21.3	10.0	8.1	11.1	8.1	35
結 腸	277	148	129	35.6	40.1	31.6	31.8	32.2	31.5	9.7	11.4	8.5	12.0	16
直腸S状結腸移行部及び直腸	106	58	48	13.6	15.7	11.8	13.4	17.1	9.9	3.8	4.3	4.5	3.8	26
肝 及 び 肝 内 胆 管	229	142	87	29.5	38.5	21.3	18.7	25.9	11.9	9.3	7.7	6.8	4.5	1
胆のう及びその他の胆道	130	56	74	16.7	15.2	18.1	14.3	15.7	13.0	3.7	6.6	4.2	4.9	15
膵	257	133	124	33.1	36.0	30.4	34.3	34.9	33.7	8.7	11.0	9.2	12.9	36
気 管 , 気 管 支 及 び 肺	497	369	128	64.0	100.0	31.4	62.8	89.5	37.6	24.2	11.3	23.6	14.3	31
乳 房	115	1	114	14.8	0.3	27.9	13.3	0.2	25.7	0.1	10.1	0.1	9.8	9
子 宮	47	・	47	11.5	・	11.5	11.5	・	11.5	・	4.2	・	4.4	22
前 立 腺	94	94	・	25.5	25.5	・	23.4	23.4	・	6.2	・	6.2	・	22
白 血 病	68	39	29	8.8	10.6	7.1	8.3	10.4	6.3	2.6	2.6	2.7	2.4	23
そ の 他	539	293	246	69.4	79.4	60.3	64.8	73.1	56.9	19.2	21.8	19.3	21.7	...
(再掲) 大 腸	383	206	177	49.3	55.8	43.4	45.2	49.3	41.4	13.5	15.7	13.0	15.8	18

注：1) 「大腸」は「結腸」と「直腸S状結腸移行部及び直腸」を示す。

2) 「子宮」の死亡率は女性人口10万対である。

3) 「前立腺」の死亡率は男性人口10万対である。

図8 悪性新生物の部位別死亡割合（令和6年）佐賀県

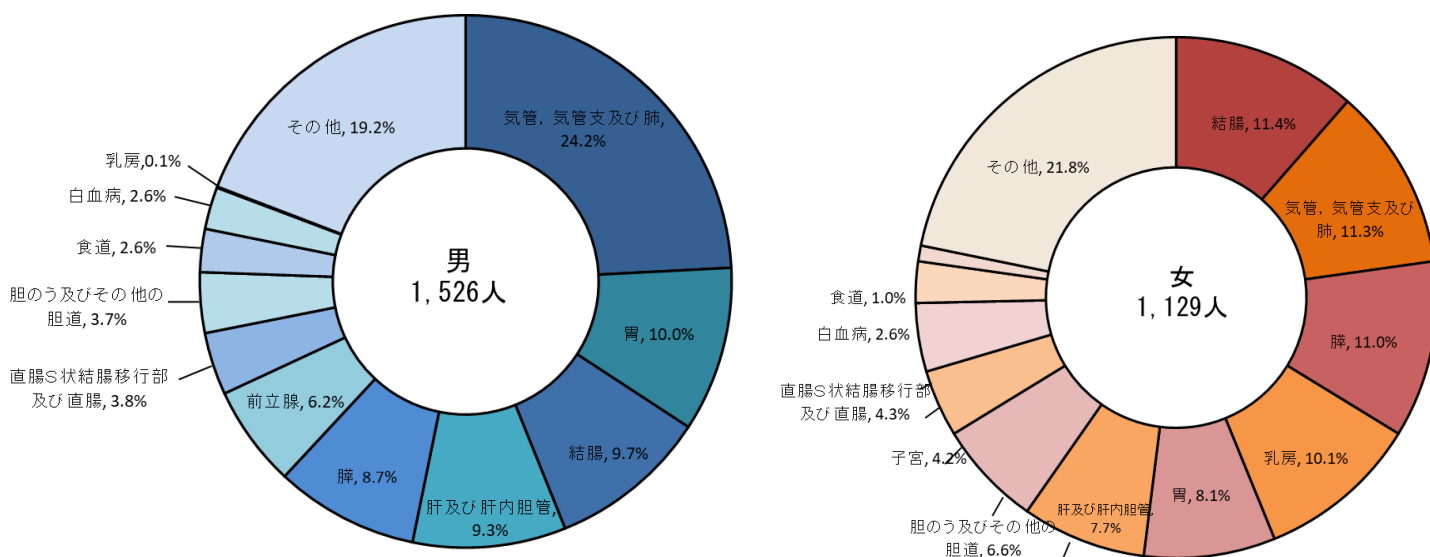


表10 部位別にみた悪性新生物死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

年次	総 数	食 道	胃	結 腸	直 腸 移 行 部 S 状 結 腸	肝 及 び 肝 内 胆 管	胆 の う の 胆 道	そ の 他 の 胆 道	膵	気 管 ・ 気 管 支	及 び 肺	乳 房	子 宮	前 立 腺	白 血 病	そ の 他	(再掲) 大 腸
昭和 35 年	1 183	33	524	27	43	152	...	23	58	15	85	...	31	192	70		
40	1 223	19	521	30	36	165	...	38	66	24	75	...	27	222	66		
45	1 255	42	526	36	45	134	...	53	103	25	59	...	45	187	81		
50	1 367	33	529	45	63	147	...	49	135	14	68	...	30	254	108		
55	1 546	34	474	73	49	190	...	76	217	30	63	...	31	309	122		
60	1 712	34	425	102	73	273	...	85	258	30	35	...	48	349	175		
平成 2 年	1 992	35	391	147	77	325	...	127	315	50	46	...	66	413	224		
7	2 320	63	404	197	82	374	135	135	373	43	51	51	73	390	279		
12	2 473	64	385	175	87	387	143	152	423	64	42	75	78	473	262		
17	2 709	73	400	199	88	405	147	203	467	78	31	87	92	439	287		
22	2 714	73	391	219	92	348	116	190	510	96	55	98	79	447	311		
27	2 698	67	344	230	92	295	123	229	494	93	43	102	85	501	322		
令和 2 年	2 689	62	280	259	98	242	139	237	542	95	43	107	82	503	357		
3	2 674	70	304	238	87	229	124	276	509	88	45	90	69	545	325		
4	2 764	57	299	262	90	201	146	252	559	109	59	105	77	548	352		
5	2 674	55	246	246	102	199	119	269	538	96	57	110	81	556	348		
6	2 655	51	245	277	106	229	130	257	497	115	47	94	68	539	383		

死 亡 率 (人口10万対)

昭和 35 年	125.5	3.5	55.6	2.9	4.6	16.1	...	2.4	6.2	1.6	17.2	...	3.3	20.4	7.4
40	140.3	2.2	59.8	3.4	4.1	18.9	...	4.4	7.6	2.8	16.3	...	3.1	25.5	7.6
45	149.9	5.0	62.8	4.3	5.4	16.0	...	6.3	12.3	3.0	13.3	...	5.4	22.3	9.7
50	163.5	3.9	63.3	5.4	7.5	17.6	...	5.9	16.1	1.7	15.4	...	3.6	30.4	12.9
55	178.9	3.9	54.9	8.4	5.7	22.0	...	8.8	25.1	3.5	13.9	...	3.6	35.8	14.1
60	192.2	3.8	47.7	11.5	8.2	30.7	...	9.5	29.0	3.4	7.5	...	5.4	39.2	19.6
平成 2 年	227.3	4.0	44.6	16.8	8.8	37.1	...	14.5	35.9	5.7	9.9	...	7.5	47.1	25.6
7	262.9	7.1	45.8	22.3	9.3	42.4	15.3	15.3	42.3	4.9	11.0	12.2	8.3	44.2	31.6
12	282.9	7.3	44.0	20.0	10.0	44.3	16.4	17.4	48.4	7.3	9.1	18.1	8.9	54.1	30.0
17	313.9	8.5	46.3	23.1	10.2	46.9	17.0	23.5	54.1	9.0	6.8	21.4	10.7	50.9	33.3
22	320.7	8.6	46.2	25.9	10.9	41.1	13.7	22.5	60.3	11.3	12.3	24.6	9.3	52.8	36.8
27	325.5	8.1	41.5	27.7	11.1	35.6	14.8	27.6	59.6	11.2	9.8	26.0	10.3	60.4	38.8
令和 2 年	334.1	7.7	34.8	32.2	12.2	30.1	17.3	29.4	67.3	11.8	10.2	28.0	10.2	62.5	44.4
3	334.3	8.8	38.0	29.8	10.9	28.6	15.5	34.5	63.6	11.0	10.7	23.7	8.6	68.1	40.6
4	348.5	7.2	37.7	33.0	11.3	25.3	18.4	31.8	70.5	13.7	14.1	27.9	9.7	69.1	44.4
5	340.2	7.0	31.3	31.3	13.0	25.3	15.1	34.2	68.4	12.2	13.8	29.5	10.3	70.7	44.3
6	341.7	6.6	31.5	35.6	13.6	29.5	16.7	33.1	64.0	14.8	11.5	25.5	8.8	69.4	49.3

注：1) 死因名・死因内容はICD-10による。
 2) 「子宮」は女性人口10万対の死亡率である。
 3) 「前立腺」は男性人口10万対の死亡率である。

図9 悪性新生物の主な部位別死亡率の年次推移（佐賀県）

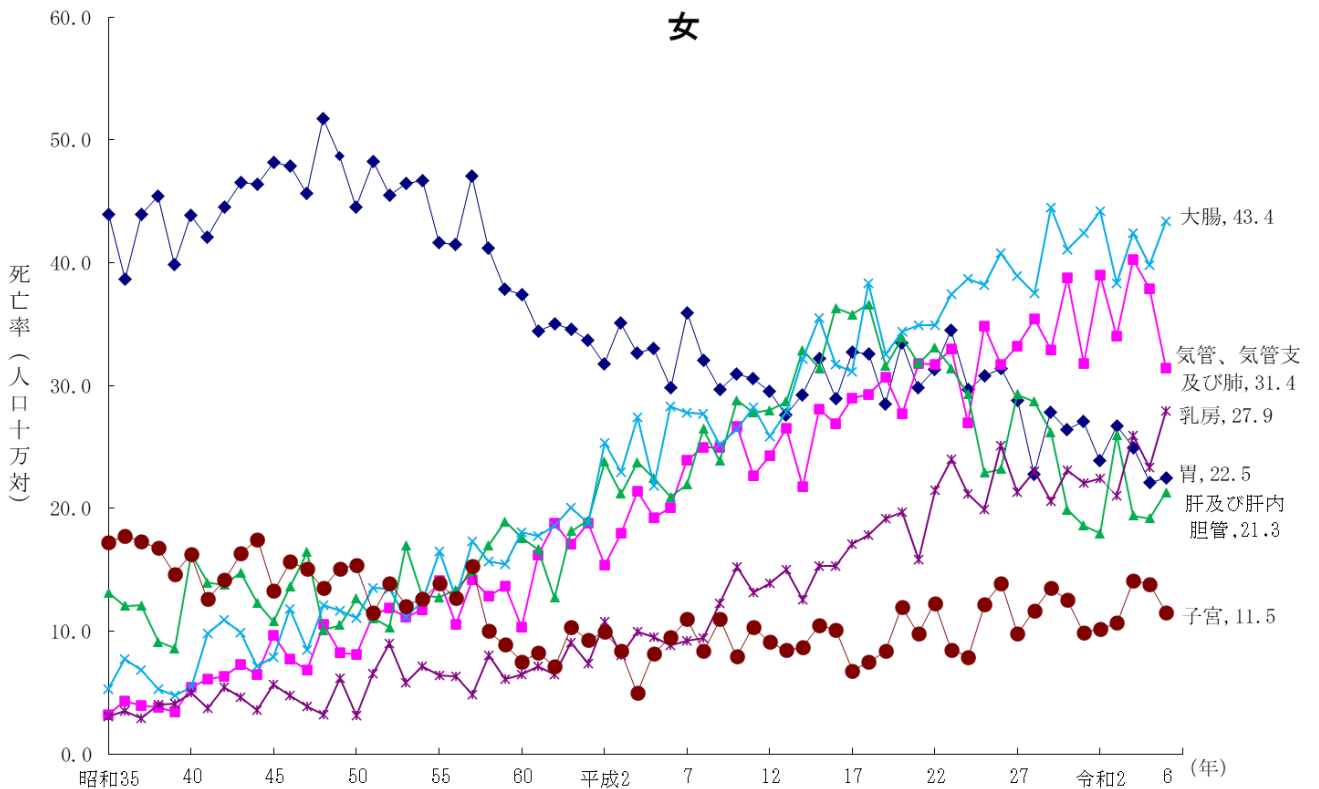
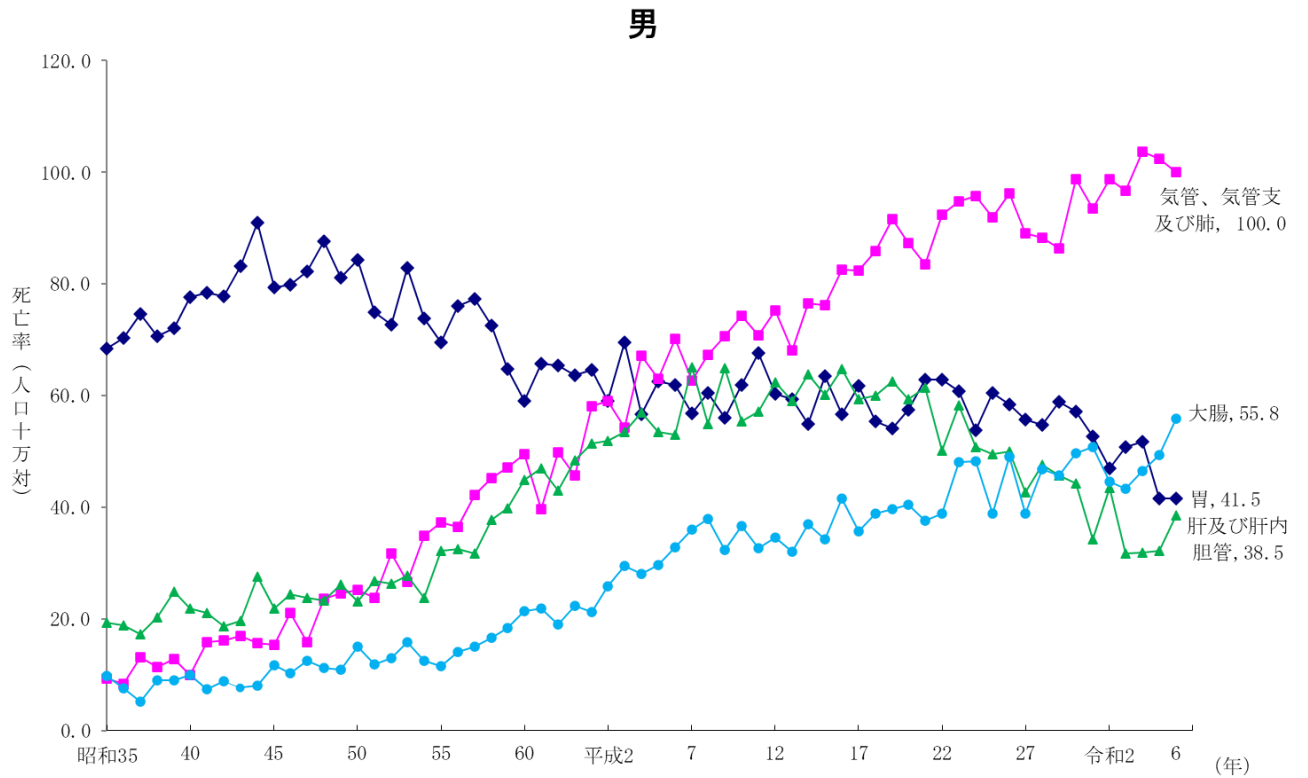


表11 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数・死亡率の年次推移

佐賀県

	胃		気管、気管支 及び肺		肝及び肝内 胆管		大腸		乳房		子宮	
総数												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和35年	524	55.6	58	6.2	152	16.1	70	7.4	15	1.6	85	17.2
40	521	59.8	66	7.6	165	18.9	66	7.6	24	2.8	75	16.3
45	526	62.8	103	12.3	134	16.0	81	9.7	25	3.0	59	13.3
50	529	63.3	135	16.1	147	17.6	108	12.9	14	1.7	68	15.4
55	474	54.9	217	25.1	190	22.0	122	14.1	30	3.5	63	13.9
60	425	47.7	258	29.0	273	30.7	175	19.6	30	3.4	35	7.5
平成2年	391	44.6	315	35.9	325	37.1	224	25.6	50	5.7	46	9.9
7	404	45.8	373	42.3	374	42.4	279	31.6	43	4.9	51	11.0
12	385	44.0	423	48.4	387	44.3	262	30.0	64	7.3	42	9.1
17	400	46.3	467	54.1	405	46.9	287	33.3	78	9.0	31	6.8
22	391	46.2	510	60.3	348	41.1	311	36.8	96	11.3	55	12.3
27	344	41.5	494	59.6	295	35.6	322	38.8	93	11.2	43	9.8
令和2年	280	34.8	542	67.3	242	30.1	357	44.4	95	11.8	43	10.2
3	304	38.0	509	63.6	229	28.6	325	40.6	88	11.0	45	10.7
4	299	37.7	559	70.5	201	25.3	352	44.4	109	13.7	59	14.1
5	246	31.3	538	68.4	199	25.3	348	44.3	96	12.2	57	13.8
6	245	31.5	497	64.0	229	29.5	383	49.3	115	14.8	47	11.5
男												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和35年	307	68.4	42	9.4	87	19.4	44	9.8	-	-	・	・
40	319	77.6	41	10.0	90	21.9	41	10.0	1	0.2	・	・
45	312	79.4	60	15.3	86	21.9	46	11.7	-	-	・	・
50	332	84.3	99	25.1	91	23.1	59	15.0	-	-	・	・
55	285	69.5	153	37.3	132	32.2	47	11.5	1	0.2	・	・
60	251	59.1	210	49.4	191	44.9	91	21.4	-	-	・	・
平成2年	244	59.0	244	59.0	215	51.9	107	25.9	-	-	・	・
7	237	56.7	262	62.7	272	65.1	150	35.9	-	-	・	・
12	249	60.2	311	75.2	258	62.4	143	34.6	-	-	・	・
17	251	61.7	335	82.3	242	59.4	145	35.6	-	-	・	・
22	251	62.9	368	92.3	200	50.2	155	38.9	-	-	・	・
27	218	55.7	349	89.1	167	42.6	152	38.8	-	-	・	・
令和2年	179	46.9	377	98.8	166	43.5	170	44.5	-	-	・	・
3	192	50.7	366	96.6	120	31.7	164	43.3	-	-	・	・
4	195	51.5	391	103.2	120	31.7	175	46.2	1	0.3	・	・
5	155	41.6	382	102.4	120	32.2	184	49.3	-	-	・	・
6	153	41.5	369	100.0	142	38.5	206	55.8	1	0.3	・	・
女												
年次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和35年	217	43.9	16	3.2	65	13.2	26	5.3	15	3.0	85	17.2
40	202	43.8	25	5.4	75	16.3	25	5.4	23	5.0	75	16.3
45	214	48.2	43	9.7	48	10.8	35	7.9	25	5.6	59	13.3
50	197	44.5	36	8.1	56	12.7	49	11.1	14	3.2	68	15.4
55	189	41.6	64	14.1	58	12.8	75	16.5	29	6.4	63	13.9
60	174	37.4	48	10.3	82	17.6	84	18.0	30	6.4	35	7.5
平成2年	147	31.8	71	15.4	110	23.8	117	25.3	50	10.8	46	9.9
7	167	35.9	111	23.9	102	22.0	129	27.8	43	9.3	51	11.0
12	136	29.5	112	24.3	129	28.0	119	25.8	64	13.9	42	9.1
17	149	32.7	132	29.0	163	35.8	142	31.1	78	17.1	31	6.8
22	140	31.3	142	31.7	148	33.1	156	34.9	96	21.5	55	12.3
27	126	28.8	145	33.2	128	29.3	170	38.9	93	21.3	43	9.8
令和2年	101	23.9	165	39.0	76	18.0	187	44.2	95	22.4	43	10.2
3	112	26.7	143	34.0	109	26.0	161	38.3	88	21.0	45	10.7
4	104	24.9	168	40.3	81	19.4	177	42.4	108	25.9	59	14.1
5	91	22.1	156	37.9	79	19.2	164	39.8	96	23.3	57	13.8
6	92	22.5	128	31.4	87	21.3	177	43.4	114	27.9	47	11.5

注：「子宮」の死亡率は女子人口10万対の率である。

(2) 心疾患

心疾患の死因順位は、昭和35年から58年までは第3位で、59年に脳血管疾患に代わって第2位となり、平成7年から第3位と順位を下げたが、12年からは再び第2位となり、以降継続してその順位を保っている。

総死亡数に占める割合は、昭和35年は8.3%、45年は12.9%、55年は17.7%であり、そしてこの10年間は13～14%台で推移していたが、令和6年は12.6%となった。

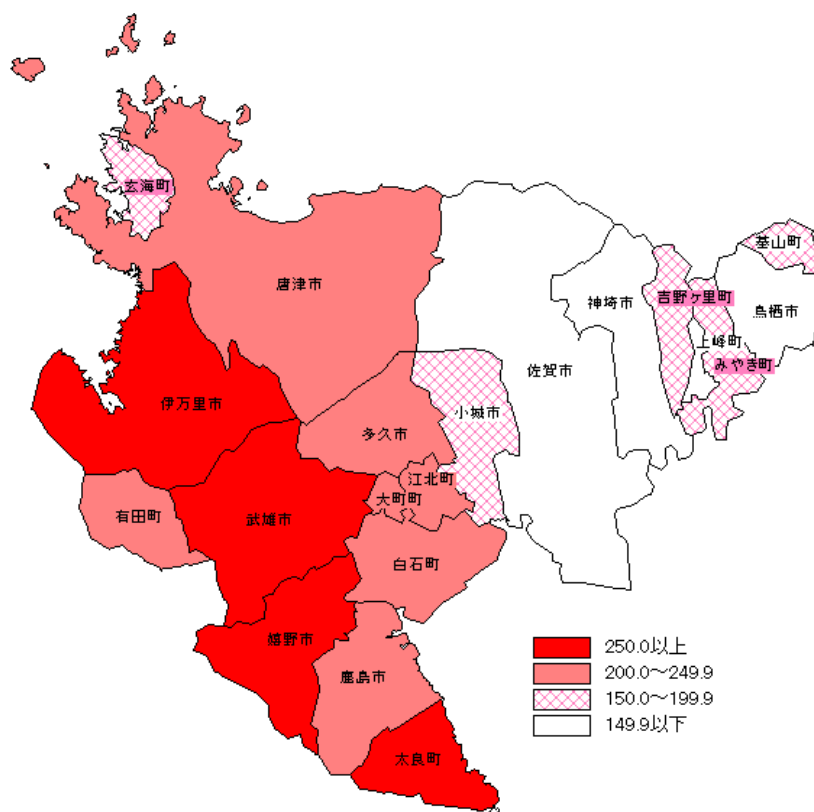
死亡率は、昭和35年は71.3、45年が110.3、55年で141.0と、多少の起伏を伴いながら上昇し平成5年の164.7をピークに6年から8年にかけて大幅に減少したが、その後はまた上昇傾向にあり、令和6年は185.2となった。

また、表12、図10は市町別心疾患死亡率である。最高は太良町の284.4、次いで武雄市の264.3、最低は鳥栖市の118.5、次いで神埼市の126.3となった。

表12 市町別心疾患死亡率

図10 市町別心疾患死亡率（令和6年）

令和6年(2024)	
市町別	死亡率 (人口10万対)
佐賀県	185.2
太良町	284.4
武雄市	264.3
嬉野市	263.8
伊万里市	253.3
鹿島市	247.8
江北町	245.0
大町町	238.4
白石町	236.1
多久市	230.3
唐津市	222.4
有田町	213.4
玄海町	199.2
みやき町	198.6
小城市	176.5
吉野ヶ里町	170.1
基山町	154.1
佐賀市	143.0
上峰町	130.3
神埼市	126.3
鳥栖市	118.5



(3) 脳血管疾患

脳血管疾患は、昭和 35 年以降第 1 位であったが、53 年に悪性新生物に代わって第 2 位、59 年から心疾患に代わり第 3 位となった。その後、平成 7 年から 11 年には再び第 2 位となったが、これは、平成 7 年 1 月からの ICD-10 の導入による原死因選択ルールの特化等によるもので、死亡傾向が急激に変化したものとは考えにくい。その後、平成 12 年から 30 年までは第 3 位と第 4 位で順位変動を繰り返し推移していたが、令和 6 年は第 5 位となった。

総死亡数に占める割合は、昭和 47 年が 24.5% とピークであり、令和 6 年は 5.7% となった。

死亡率は戦後漸増してきたが、昭和 47 年の 202.8 以降、平成 5 年の 104.9 にかけて減少した。その後は増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、令和 6 年は戦後最低の 83.5 となった。

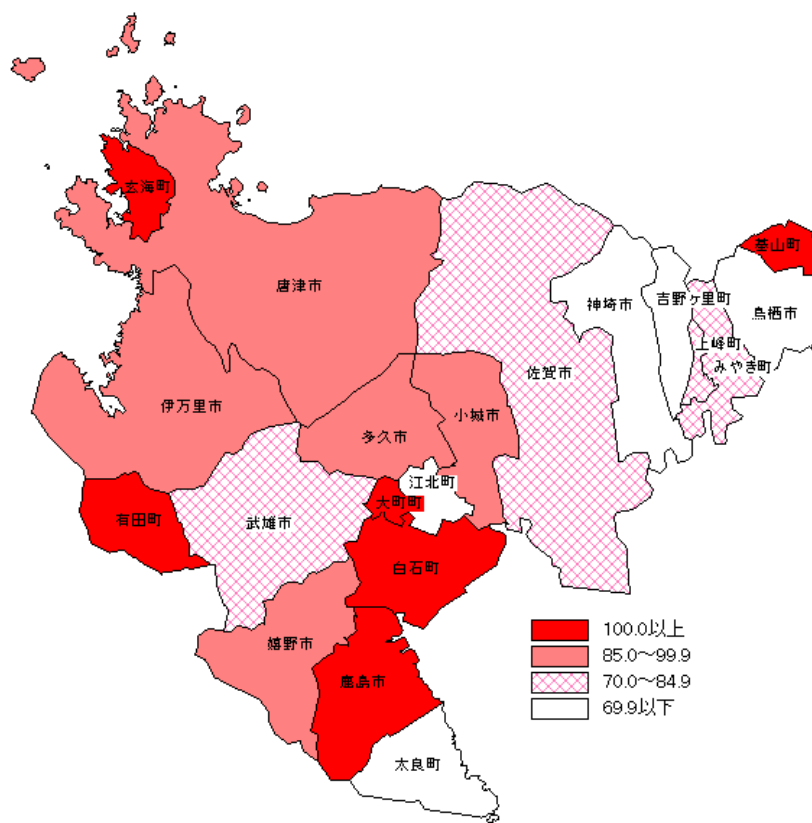
また、市町別脳血管疾患死亡率を表 13、図 11 でみると、最高は白石町の 177.1、次いで大町町の 136.2 で、最低は吉野ヶ里町の 18.9、次いで太良町の 54.2 となった。

表13 市町別脳血管疾患死亡率

図 11 市町別脳血管疾患死亡率（令和 6 年）

令和 6 年(2024)

市町別	死亡率 (人口10万対)
佐賀県	83.5
白石町	177.1
大町町	136.2
鹿島市	133.4
玄海町	119.5
基山町	106.7
有田町	101.1
嬉野市	98.9
小城市	96.5
伊万里市	89.1
多久市	88.6
唐津市	86.2
佐賀市	80.2
武雄市	78.6
上峰町	76.0
みやき町	75.5
江北町	63.9
神埼市	58.0
鳥栖市	57.2
太良町	54.2
吉野ヶ里町	18.9



(4) 不慮の事故

死因順位は、昭和 56 年以降第 5 位が続いていたが、平成 24 年に第 6 位となり、令和 6 年は 7 位となっている。

死亡率は、多少の上下はあるものの昭和 50 年代からほぼ横ばい状態にあり、令和 6 年は 36.3 で全国 36 位であった。

不慮の事故の中で最も多いのは転倒・転落・墜落（死亡率 10.6）で、死亡者の 92.7%を 65 歳以上の高齢者が占めている。

また、令和 6 年の交通事故の死亡率は 3.0 と前年の 2.2 を上回っており、傷害発生地別にみた路上交通事故の死亡率は 2.4 と、全国の 2.6 を下回っている。

表14 路上交通事故死亡率（人口10万対）及び自動車保有台数の年次推移

年次	路上交通事故死亡率(注1)		自動車保有台数(各年3月末)(注2)	
	佐賀県	全国	佐賀県	全国
昭和 30 年	4.0	6.7	7 699	1 311 781
35	12.9	14.4	16 990	2 775 189
40	22.7	16.5	40 831	6 984 864
45	27.0	20.9	126 891	16 528 521
50	15.9	12.8	218 267	27 870 475
55	10.5	10.1	311 222	37 333 250
60	11.1	10.5	384 837	46 009 247
平成 2 年	16.4	11.9	459 958	57 993 866
7	16.9	11.4	540 614	68 103 696
12	14.6	9.5	595 127	74 582 612
17	9.8	7.1	632 469	78 278 880
22	7.6	5.1	648 148	78 693 495
24	7.3	4.6	653 868	79 112 584
25	7.3	4.3	659 792	79 625 203
26	7.9	4.1	665 441	80 272 571
27	7.1	4.0	670 757	80 670 393
令和 2 年	4.5	2.6	681 902	81 849 782
3	3.1	2.6	684 646	82 077 752
4	3.8	2.6	687 001	82 174 944
5	1.7	2.6	690 082	82 451 350
6	2.4	2.6	695 124	82 956 911

注：1）路上交通事故の発生地別による死亡率である。

ただし、平成 2 年以前は自動車事故の死亡率である。

2）一般財団法人 自動車検査登録情報協会調べ

第3章 乳児死亡

1 乳児死亡の動き

令和6年の乳児死亡数は13人で、乳児死亡率（出生千対）は2.7となった。

生後1年未満の死亡を乳児死亡といい、通常、出生数千に対する乳児死亡率で観察する。死亡統計で特にこれを取り上げて観察の対象とするのは、乳児の死亡は妊娠中の母体の保護と出生後の乳児の適切な保育によって、比較的容易に改善が図られるものであり、これらの条件は母親と乳児を取り巻く生活環境に左右される。乳児死亡率は、このような理由と算出の容易さから、公衆衛生の指標としてしばしば使われている。

本県の乳児死亡率の推移を図1で見ると、戦後は医療の進歩や公衆衛生の向上などにより急速な低下傾向をたどり、近年は昭和25年当時と比べると激減している。

乳児死亡率を全国と比べると、戦後長期間にわたり上回って推移していた。昭和54年以降は下回っている年も多くなっているが、令和6年は2.7と全国の1.8を上回った。



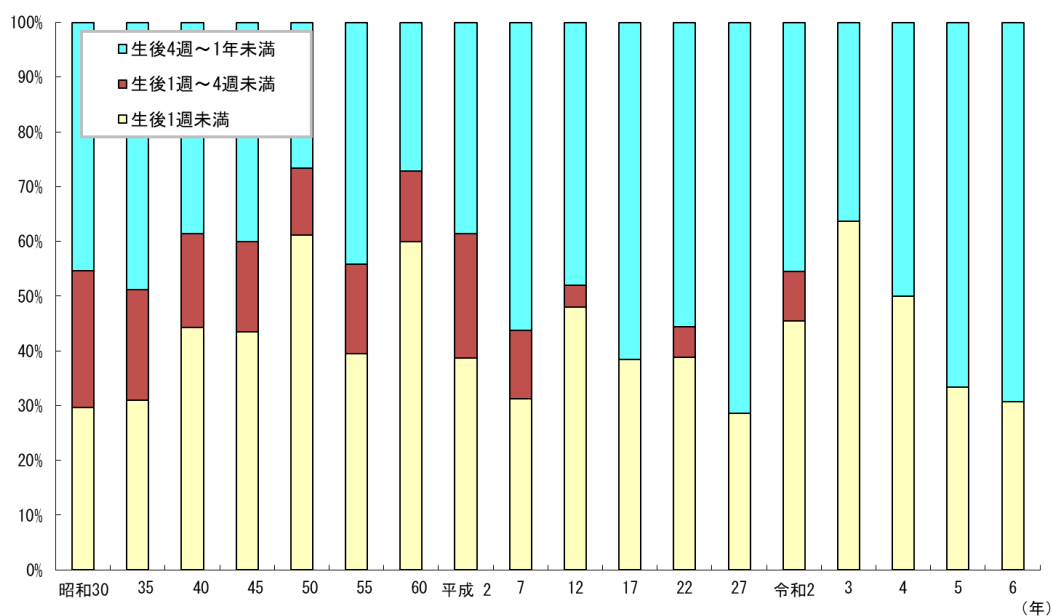
2 生存期間と乳児死亡

令和6年の乳児死亡率を生存期間によって分けてみると表1、図2のとおりである。4週未満のいわゆる新生児死亡は4人であった。また、4週以上1年未満の乳児死亡のうち、6か月以上9か月未満が3人（23.1%）、それ以外が各2人（15.4%）となった。

表1 生存期間別・年次別乳児死亡率（出生千対）

年次	総数	4週未満	(再掲)		4週～3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～9ヶ月未満	9ヶ月～1年未満
			1週未満	1日未満				
			佐賀県					
昭和30年	37.9	20.7	11.3	2.6	7.9	5.1	2.4	1.9
35年	35.1	18.0	10.9	2.1	7.0	5.0	3.1	2.0
40年	21.0	12.9	9.3	1.9	2.8	2.3	1.7	1.3
45年	15.2	9.1	6.6	2.4	2.2	1.4	1.3	1.2
50年	10.6	7.8	6.5	2.1	0.8	0.9	0.7	0.5
55年	6.8	3.9	2.7	0.8	1.3	0.8	0.4	0.6
60年	6.0	4.4	3.6	1.4	0.4	0.4	0.3	0.5
平成2年	4.6	2.8	1.8	0.8	0.5	0.7	0.2	0.3
7年	3.7	1.6	1.1	0.6	0.9	0.6	0.5	0.1
12年	2.9	1.5	1.4	0.7	0.8	0.2	0.2	0.1
17年	1.7	0.7	0.7	0.4	0.4	0.1	0.3	0.3
22年	2.4	1.0	0.9	0.5	0.3	0.4	0.1	0.5
27年	1.0	0.3	0.3	-	0.1	0.6	-	-
令和2年	1.8	1.0	0.8	0.5	-	0.7	0.2	-
3年	1.9	1.2	1.2	0.5	0.2	-	0.3	0.2
4年	1.1	0.5	0.5	0.2	0.4	-	0.2	-
5年	2.3	0.8	0.8	0.6	-	1.0	0.6	-
6年	2.7	0.8	0.8	0.6	0.4	0.4	0.6	0.4
割合(R6)	100.0	30.8	30.8	23.1	15.4	15.4	23.1	15.4

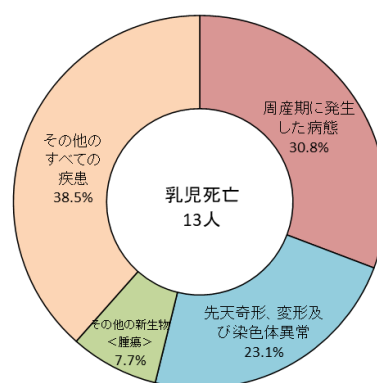
図2 生存期間別・年次別乳児死亡割合の年次推移（佐賀県）



3 乳児死亡の死因

乳児死亡の死因は、先天的なものと後天的なものに大きく分けられる。令和6年について死因別にみると図3のとおりで、周産期に発生した病態が4人（30.8%）、先天奇形、変形及び染色体異常が3人（23.1%）、その他の新生物<腫瘍>が1人（7.7%）、その他のすべての疾患が5人（38.5%）となっている。

図3 乳児死亡の死因別割合 令和6年（佐賀県）



第4章 死 産

1 死産の動き

表1は死産数と死産率の年次推移であり、令和6年は死産数85胎、死産率17.3となった。全国の自然死産率、人工死産率はともに前年を上回った一方、本県ではそれぞれ8.8、8.6と前年を下回った。

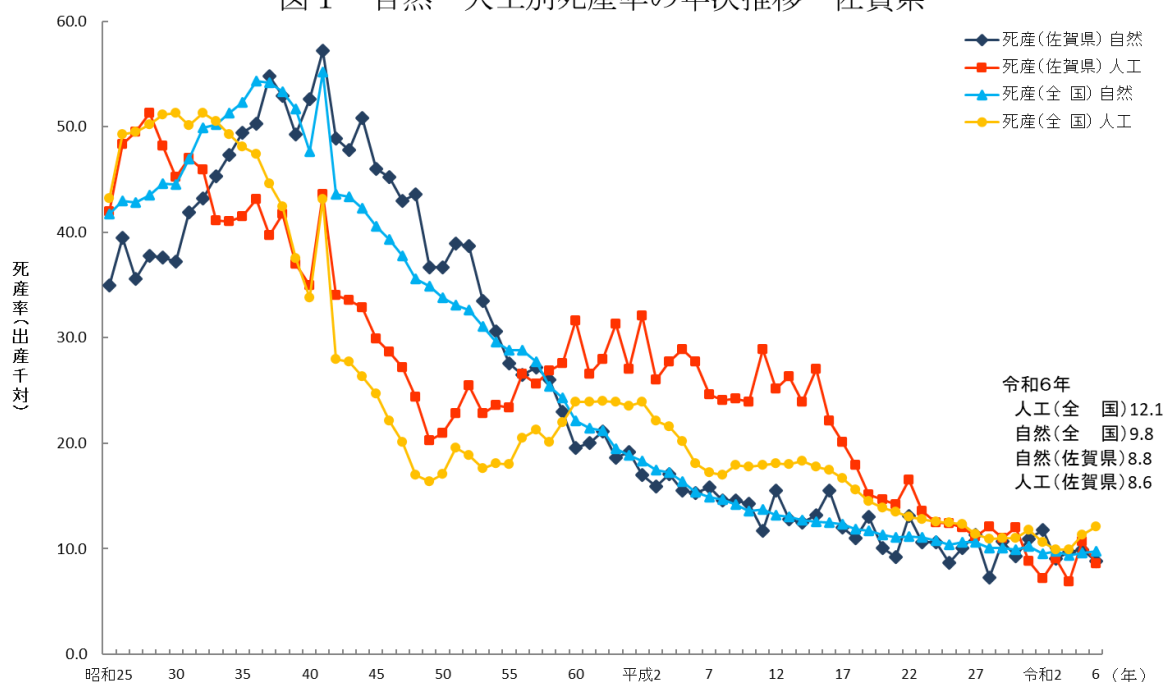
また、死産率の年次推移を図1でみると、自然死産は昭和41年をピークにその後は低下を続け、人工死産も昭和28年をピークに多少の起伏はあるものの低下傾向にある。昭和58年以降は、平成26年度まで自然死産率より人工死産率が高くなっていたが、令和6年は自然死産率が0.2上回った。

表1 自然－人工別死産数と死産率の年次推移

佐賀県

年次	総 数		自然死産		人工死産		全国死産率	
	実数	死産率	実数	死産率	実数	死産率	自然	人工
昭和25年	2 501	77.0	1 136	35.0	1 365	42.0	41.7	43.2
30	2 001	82.5	903	37.2	1 098	45.2	44.5	51.3
35	1 729	90.9	940	49.4	789	41.5	52.3	48.1
40	1 386	87.6	832	52.6	554	35.0	47.6	33.8
45	1 083	75.9	656	46.0	427	29.9	40.6	24.7
50	801	57.7	509	36.7	292	21.0	33.8	17.1
55	670	51.0	363	27.6	307	23.4	28.8	18.0
58	669	52.9	329	26.0	340	26.9	25.4	20.1
60	632	51.2	242	19.6	390	31.6	22.1	23.9
平成2年	494	49.2	171	17.0	323	32.1	18.3	23.9
7	368	40.5	144	15.8	224	24.6	14.9	17.2
12	371	40.7	141	15.5	230	25.2	13.2	18.1
17	249	32.1	93	12.0	156	20.1	12.3	16.7
22	233	29.6	103	13.1	130	16.5	11.2	13.0
27	163	22.6	82	11.3	81	11.2	10.6	11.4
令和2年	116	19.0	72	11.8	44	7.2	9.5	10.6
3	108	18.1	54	9.1	54	9.1	9.8	9.9
4	94	16.6	55	9.7	39	6.9	9.4	9.9
5	108	20.6	52	9.9	56	10.7	9.6	11.3
6	85	17.3	43	8.8	42	8.6	9.8	12.1

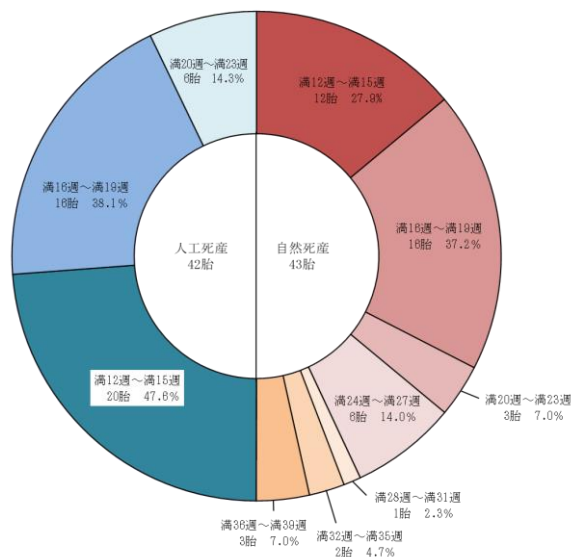
図1 自然－人工別死産率の年次推移 佐賀県



2 妊娠期間別の死産

妊娠期間別死産の割合について図2でみると、自然死産では満12～15週が27.9%、満16～19週が37.2%、満20～23週が7.0%と、満12～23週までが全体の72.1%を占めている。

図2 妊娠期間別死産の割合(自然-人工) 令和6年(佐賀県)



3 人工妊娠中絶

死産統計には、母体保護法による妊娠満12週から満21週までの人工妊娠中絶を含んでいる。同法による人工妊娠中絶の件数は、昭和25年の3,449件から年々増加し、昭和27年に人工妊娠中絶の理由として「経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合」が認められて以降、急増した。しかし、昭和31年の13,721件をピークにその後は減少傾向にあり、令和6年は727件となった。

妊娠週数別割合は表2のとおりで、母体の負担が比較的軽い満11週以内の妊娠初期が全体の96.6%を占めている。

表2 人工妊娠中絶数と率及び妊娠週数別割合の年次推移

佐賀県

年次	人工妊娠中絶数	人工妊娠中絶率		妊娠週数別割合 (%)			
		佐賀県	全国	満11週以内	満12～19週	満20週以後	不詳
昭和 25 年	3 449	14.4	15.0	68.0	22.6	9.2	0.2
30	12 769	52.1	50.2	89.0	7.7	3.3	0.0
35	8 221	34.3	42.0	92.1	5.3	2.6	0.0
40	6 998	30.4	30.2	94.5	3.3	2.2	—
45	6 041	26.4	24.8	95.5	3.0	1.5	0.0
50	4 918	22.4	22.1	96.6	2.2	1.2	—
55	4 795	22.2	19.5	94.2	4.3	1.5	—
60	4 711	22.3	17.8	93.3	4.6	2.1	—
平成 2 年	4 981	23.9	14.5	94.0	4.8	1.3	—
7	3 966	19.8	11.1	95.3	4.0	0.7	—
12	3 552	18.5	11.7	94.9	4.5	0.6	—
17	2 824	15.3	10.3	95.8	3.4	0.8	—
22	1 846	11.0	7.9	96.6	2.9	0.5	—
令和 2 年	1 022	6.9	5.8	97.6	2.0	0.5	—
3	836	5.6	5.1	97.0	2.0	1.0	—
4	798	5.5	5.1	97.4	2.1	0.5	—
5	814	5.6	5.3	89.9	8.1	2.0	—
6	727	5.1	5.5	96.6	3.0	0.4	—

注：率は15歳以上50歳未満の女子人口千対である。

資料：厚生労働省「衛生行政報告例」（平成12年以前は「母体保護統計」）

第5章 周産期死亡

周産期死亡とは、妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものをいい、これは、周産期の児の死亡には母体の健康状態に強く作用されるという共通性が認められるためである。つまり、周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対）が高くなるほど母体の保護が不十分であるといえる。

令和6年の周産期死亡率は3.3であり、全国順位は26位であった。また、妊娠満22週以後の死産数は12胎、死産率は2.5で前年の2.3を上回った。早期新生児死亡数は4人、死亡率は0.8で前年と同値であった。

早期新生児死亡率を図1、表1でみると、昭和37年の13.4をピークに年々低下し、57年には2.0となった。その後も多少の起伏はあるものの低下傾向にある。

図1 周産期死亡率の年次推移 佐賀県

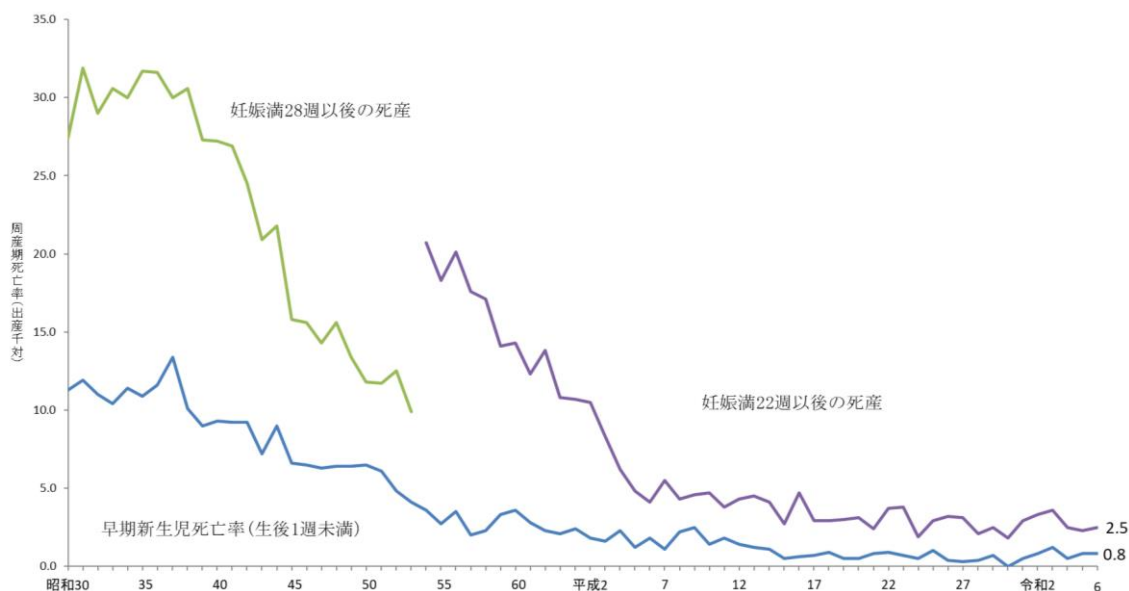


表1 周産期死亡数と率の年次推移

年次	周産期死亡		妊娠満22週以後の死産		早期新生児死亡		周産期死亡中妊娠満22週以後の死産のしめる割合(%)
	死亡数	死亡率	死産数	死産率	死亡数	死亡率	
昭和35年	737	42.6	549	31.7	188	10.9	74.5
37	657	43.3	454	30.0	203	13.4	69.1
40	527	36.5	393	27.2	134	9.3	74.6
45	296	22.4	209	15.8	87	6.6	70.6
50	240	18.3	155	11.8	85	6.5	64.6
55	266	20.9	232	18.3	34	2.7	87.2
57	242	19.5	218	17.6	24	2.0	90.1
60	212	17.9	170	14.3	42	3.6	80.2
平成2年	118	12.2	101	10.5	17	1.8	85.6
7	58	6.6	48	5.5	10	1.1	82.8
12	50	5.7	38	4.3	12	1.4	76.0
17	27	3.6	22	2.9	5	0.7	81.5
22	35	4.6	28	3.7	7	0.9	80.0
27	24	3.4	22	3.1	2	0.3	91.7
令和2年	25	4.2	20	3.3	5	0.8	80.0
3	28	4.8	21	3.6	7	1.2	75.0
4	17	3.1	14	2.5	3	0.5	82.4
5	16	3.1	12	2.3	4	0.8	75.0
6	16	3.3	12	2.5	4	0.8	75.0
全国(R6)	2 285	3.3	1 800	2.6	485	0.7	78.8

注：昭和50年以前は妊娠満28週以後の死産

次に、令和6年の周産期死亡を原因別にみると表2のとおりで、母側病態では「母体に原因なし」が56.3%を占め、児側病態では「周産期に発生した病態」が93.8%を占めている。

表2 妊娠満22週以後の死産-早期新生児死亡・原因別周産期死亡数と死亡割合（令和6年）

佐賀県

死 因 (母側病態・児側病態)	死 亡 数			構 成 割 合 (%)		
	総 数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	総 数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡
総 数	16	12	4	100.0	100.0	100.0
母						
母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	7	5	2	43.8	41.7	50.0
現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	2	1	1	12.5	8.3	25.0
母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児及び新生児	1	-	1	6.3	-	25.0
胎盤、臍帯及び卵膜の合併症により影響を受けた胎児及び新生児	4	4	-	25.0	33.3	-
その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
胎盤又は母乳を介して有害な影響を受けた胎児及び新生児	-	-	-	-	-	-
母体に原因なし	9	7	2	56.3	58.3	50.0
児						
感染症及び寄生虫症	-	-	-	-	-	-
新生物	-	-	-	-	-	-
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	-	-	-	-	-	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	-	-	-	-	-	-
精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-
神経系の疾患	-	-	-	-	-	-
眼及び付属器の疾患	-	-	-	-	-	-
耳及び乳様突起の疾患	-	-	-	-	-	-
循環器系の疾患	-	-	-	-	-	-
呼吸器系の疾患	-	-	-	-	-	-
消化器系の疾患	-	-	-	-	-	-
皮膚及び皮下組織の疾患	-	-	-	-	-	-
筋骨格系及び結合組織の疾患	-	-	-	-	-	-
側						
尿路性器系の疾患	-	-	-	-	-	-
周産期に発生した病態	15	11	4	93.8	91.7	100.0
先天奇形、変形及び染色体異常	1	1	-	6.3	8.3	-
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	-	-	-	-	-	-
損傷、中毒及びその他の外因の影響	-	-	-	-	-	-
傷病及び死亡の外因	-	-	-	-	-	-

注：「傷病及び死亡の外因」については「損傷、中毒及びその他の外因の影響」の再掲

第6章 婚姻と離婚

1 婚姻の動き

令和6年の本県の婚姻数は2,609件で前年より121件減少し、婚姻率（人口千対）は3.4で前年の3.5を下回った。

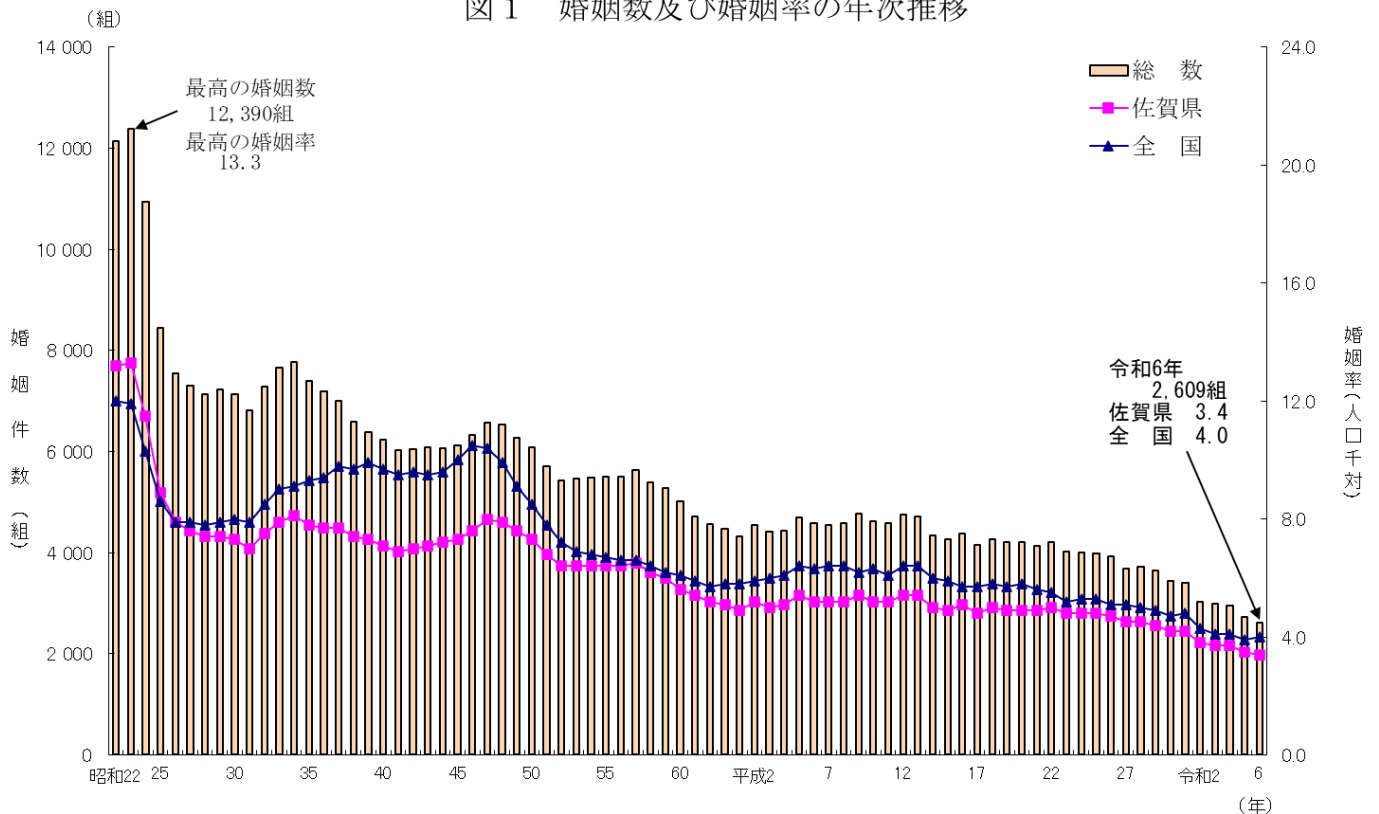
図1は婚姻数及び婚姻率の年次推移である。婚姻率は終戦直後の婚姻ブームのあと急速に低下し、昭和30年代の初めは上昇傾向にあったが、34年を境にしてゆるやかに低下を続けた。

40年代に入ると、戦後第2の婚姻ブームを反映して上昇を始めたが、47年をピークに、多少の起伏はあるものの低下傾向で推移している。

表1 婚姻数と率の年次推移

年次	婚姻数	婚姻率(人口千対)	
		佐賀県	全 国
昭和 22 年	12 133	13.2	12.0
25	8 451	8.9	8.6
30	7 134	7.3	8.0
35	7 400	7.8	9.3
40	6 230	7.1	9.7
45	6 118	7.3	10.0
50	6 086	7.3	8.5
55	5 511	6.4	6.7
60	5 012	5.6	6.1
平成 2 年	4 539	5.2	5.9
7	4 550	5.2	6.4
12	4 749	5.4	6.4
17	4 155	4.8	5.7
22	4 210	5.0	5.5
27	3 692	4.5	5.1
令和 2 年	3 031	3.8	4.3
3	2 992	3.7	4.1
4	2 951	3.7	4.1
5	2 730	3.5	3.9
6	2 609	3.4	4.0

図1 婚姻数及び婚姻率の年次推移



2 結婚生活に入った年齢

令和6年に結婚生活に入り、届け出た人の平均初婚年齢は夫 30.1 歳、妻 29.1 歳で、夫、妻ともに前年を下回った。

また、初婚夫妻の年齢別割合は、夫妻ともに 25～29 歳が最も多く、夫 38.0%、妻 40.0%となっている。

表2 平均初婚年齢および夫妻の年齢差の年次推移(各届出年に結婚生活に入り届け出たもの)

年次	佐 賀 県			全 国		
	夫	妻	年齢差	夫	妻	年齢差
昭和50年	26.6 歳	24.5 歳	2.1 歳	27.0 歳	24.7 歳	2.3 歳
55	27.4	25.1	2.3	27.8	25.2	2.6
60	27.9	25.5	2.4	28.2	25.5	2.7
平成2年	28.4	25.9	2.5	28.4	25.9	2.5
7	28.4	26.3	2.1	28.5	26.3	2.2
12	28.0	26.5	1.5	28.8	27.0	1.8
17	29.0	27.4	1.6	29.8	28.0	1.8
22	29.6	28.2	1.4	30.5	28.8	1.7
27	30.2	28.9	1.3	31.1	29.4	1.7
令和2年	30.2	29.1	1.1	31.0	29.4	1.6
3	30.1	29.1	1.0	31.0	29.5	1.5
4	30.3	29.0	1.3	31.1	29.7	1.4
5	30.2	29.2	1.0	31.1	29.7	1.4
6	30.1	29.1	1.0	31.1	29.8	1.3

注：結婚式をあげたときまたは同居をはじめたときのうち早いほうの年齢である。

表3 初婚夫妻の年齢階級別割合 (令和6年)

佐賀県

	初 婚 者 数				令和6年に結婚生活に入り届け出たもの(再掲)			
	実 数		割 合		実 数		割 合	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
総数	2,128	2,176	100.0	100.0	1,565	1,579	100.0	100.0
20歳未満	33	55	1.6	2.5	20	30	1.3	1.9
20～24	498	573	23.4	26.3	317	355	20.3	22.5
25～29	809	871	38.0	40.0	581	625	37.1	39.6
30～34	441	411	20.7	18.9	350	340	22.4	21.5
35～39	187	161	8.8	7.4	160	143	10.2	9.1
40～44	94	62	4.4	2.8	82	53	5.2	3.4
45～49	36	26	1.7	1.2	30	21	1.9	1.3
50歳以上	30	17	1.4	0.8	25	12	1.6	0.8
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

注：結婚式をあげたときまたは同居をはじめたときのうち早いほうの年齢である。

3 離婚の動き

令和6年の本県の離婚件数は1,159件で前年より9件増加し、離婚率（人口千対）は1.49と前年の1.46を上回った。

離婚率の年次推移を図2で見ると、昭和39年までは低下、その後は多少の起伏を伴いながらも上昇を続けていたが59年をピークに低下した。その後、平成2年以降上昇に転じたが、平成18年以降再び減少傾向となった。

また、同居期間別（表5）にみると、「5年未満」が350件（30.2%）で最も多く、次いで「20年以上」の252件（21.7%）、「5～10年」の227件（同19.6%）となっている。

表4 離婚件数と率の年次推移

年次	離婚件数	離婚率(人口千対)	
		佐賀県	全 国
昭和 22 年	1 031	1.12	1.02
25	943	1.00	1.01
30	805	0.83	0.84
35	665	0.71	0.74
40	641	0.74	0.79
45	658	0.79	0.93
50	751	0.90	1.07
55	859	0.99	1.22
60	1 106	1.24	1.39
平成 2 年	991	1.13	1.28
7	1 224	1.39	1.60
12	1 635	1.87	2.10
17	1 759	2.04	2.08
22	1 536	1.82	1.99
27	1 354	1.63	1.81
令和 2 年	1 235	1.53	1.57
3	1 187	1.48	1.50
4	1 041	1.31	1.47
5	1 150	1.46	1.52
6	1 159	1.49	1.55

図2 離婚件数及び離婚率の年次推移

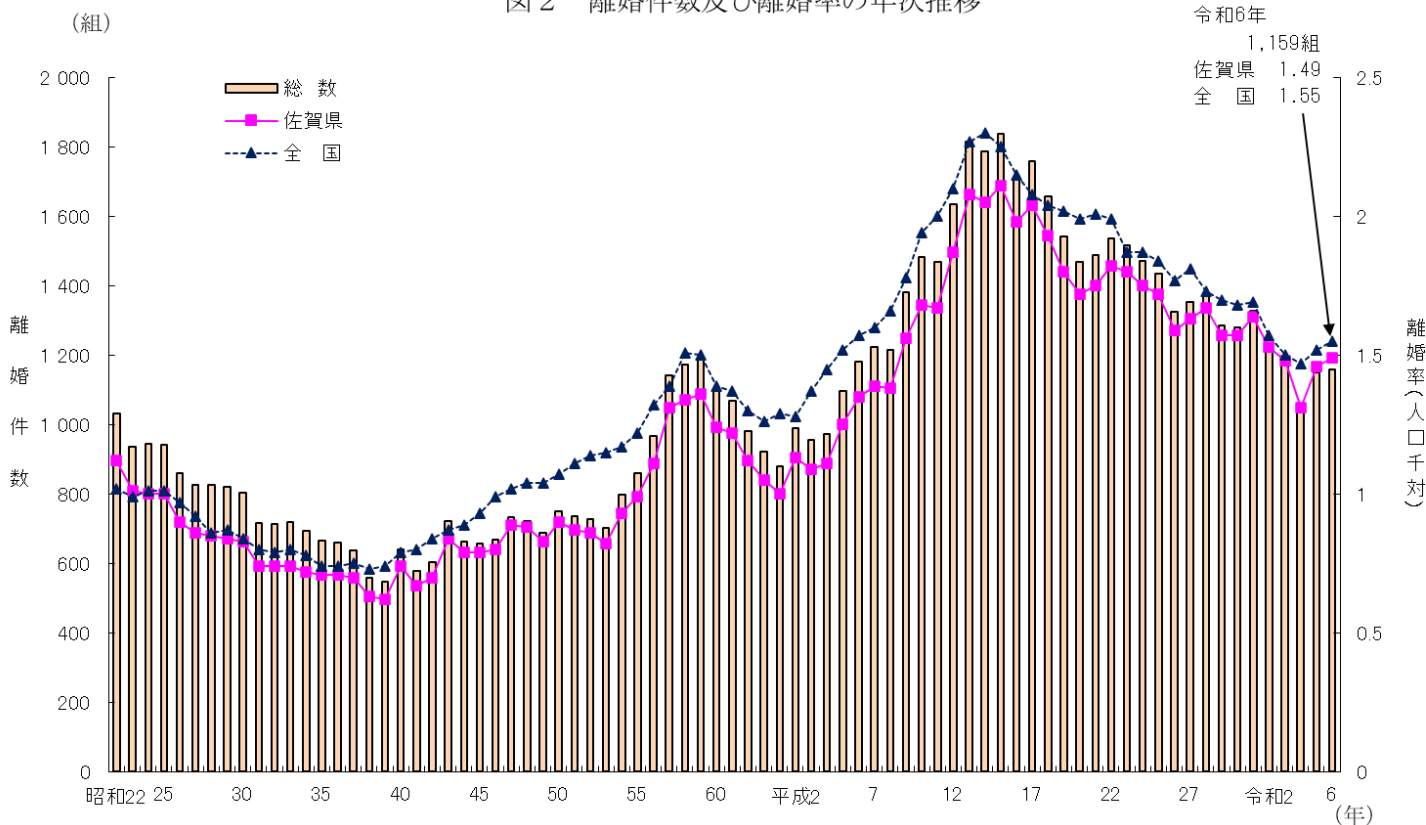


図3 同居期間別離婚件数の年次推移（佐賀県）

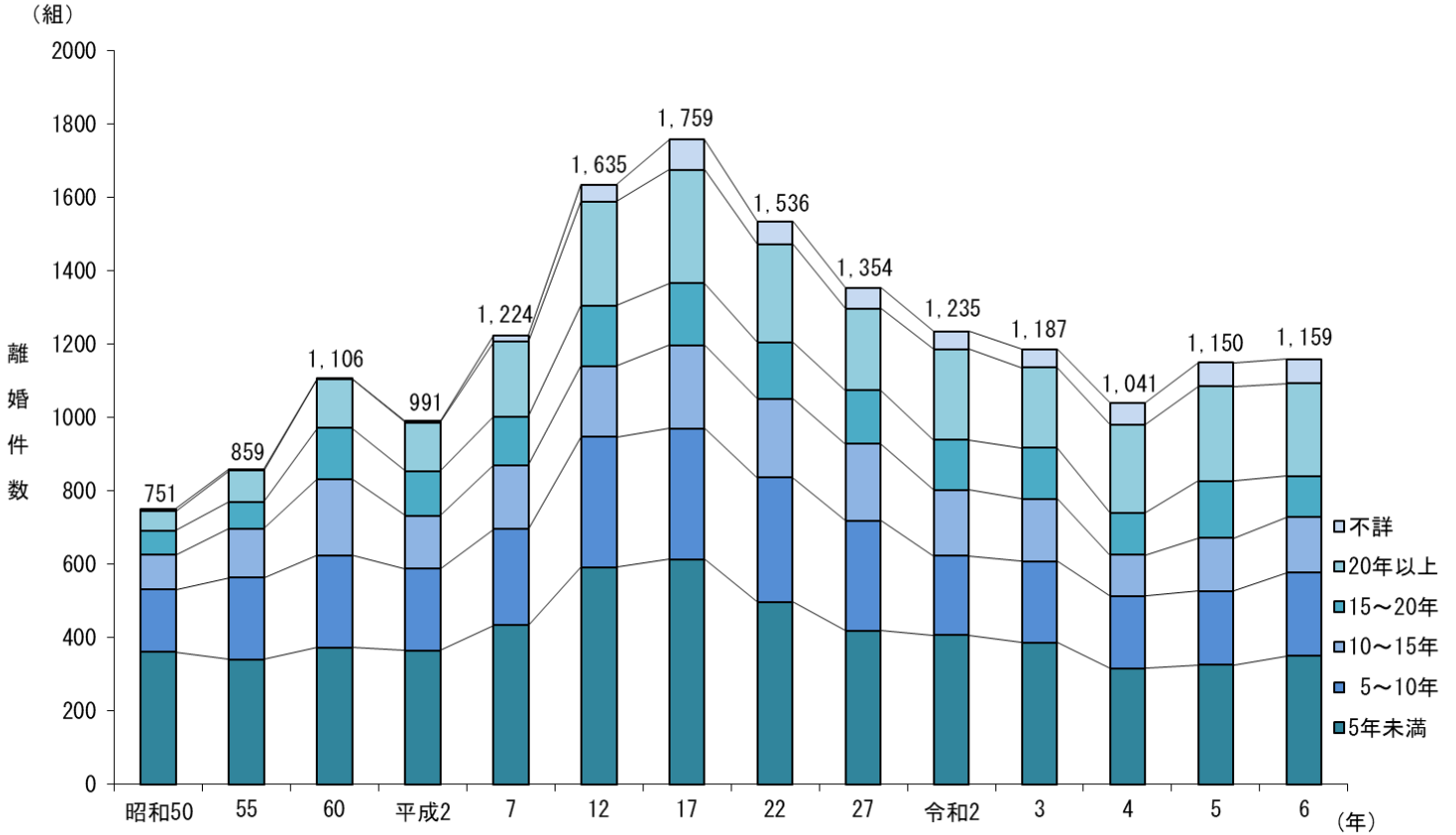


表5 同居期間別離婚件数の年次推移

佐賀県

	昭和50	55	60	平成2	7	12	17	22	27	令和2	3	4	5	6		
	件数	割合 (%)	対前年増減率 (%)													
総数	751	859	1,106	991	1,224	1,635	1,759	1,536	1,354	1,235	1,187	1,041	1,150	1,159	100.0	0.8
5年未満	361	341	373	365	433	592	614	497	419	407	386	316	326	350	30.2	7.4
5～10年	170	222	251	223	263	355	357	340	300	216	222	198	201	227	19.6	12.9
10～15年	94	134	208	144	174	194	226	215	210	180	170	112	145	151	13.0	4.1
15～20年	67	73	140	122	133	164	169	153	146	136	140	115	155	113	9.7	△ 27.1
20年以上	52	86	133	133	204	284	310	268	222	247	219	240	258	252	21.7	△ 2.3
不詳	7	3	1	4	17	46	83	63	57	49	50	60	65	66	5.7	1.5

付表 人口動態月別発生率

佐賀県

		年次	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出生人口千対	昭和	45年	15.8	17.8	16.4	15.7	15.8	15.1	14.3	16.5	15.2	15.1	14.0	14.0	14.0	15.9
		50	15.6	16.9	17.5	16.0	16.3	15.0	15.4	15.9	15.3	15.8	14.3	14.2	14.2	15.2
		55	14.4	14.2	15.6	14.1	15.1	14.0	14.2	15.7	14.9	14.8	13.3	13.1	13.1	14.1
		60	13.3	13.6	13.0	12.6	12.7	13.6	13.0	14.7	13.4	14.0	13.0	12.8	12.8	13.3
	平成	2年	10.9	10.3	11.0	10.6	10.7	11.6	11.3	11.5	11.1	11.2	10.9	10.0	10.0	10.8
		7	9.9	10.1	9.4	9.4	9.4	10.4	10.1	10.3	10.7	10.5	9.1	9.1	9.1	10.1
		12	10.0	10.3	9.9	10.7	9.9	9.9	9.9	9.6	9.6	9.9	10.7	10.5	9.4	10.1
		17	8.7	8.9	8.8	9.1	8.5	8.4	9.3	9.1	8.0	9.2	8.3	8.2	8.2	8.6
	令和	2年	22	9.0	9.2	8.8	8.6	8.5	9.3	8.9	8.9	9.0	9.5	9.4	9.4	8.8
		27	8.5	8.4	8.8	8.3	8.4	8.7	8.7	8.5	8.2	9.1	8.5	8.1	8.1	8.4
		3	7.3	6.7	6.7	7.1	8.0	7.0	7.4	7.5	7.9	8.4	7.6	6.9	6.5	6.5
		4	7.0	6.7	7.6	7.2	6.6	6.5	6.9	6.9	7.6	7.8	7.0	6.5	6.8	6.8
	死亡人口千対	昭和	45年	8.5	13.3	10.7	9.1	8.2	7.1	6.7	7.5	7.1	6.9	8.0	8.4	9.6
			50	8.0	9.0	8.3	8.5	8.5	7.9	6.5	8.1	7.4	7.0	7.9	8.1	9.3
			55	8.0	9.2	10.7	8.3	7.9	7.2	6.9	6.6	6.9	6.9	7.8	8.2	8.9
			60	7.7	8.9	8.7	8.1	7.6	6.9	6.9	6.4	6.9	6.9	7.4	8.1	10.2
平成		2年	8.3	9.8	9.1	8.9	8.2	7.7	7.2	7.4	8.0	8.1	7.8	8.6	8.7	
		7	9.0	13.2	10.5	10.0	8.4	8.2	7.7	7.7	7.8	7.6	8.2	9.2	9.6	
		12	9.0	11.4	11.4	9.8	9.7	8.2	7.9	7.8	7.8	7.5	8.1	9.2	9.7	
		17	9.9	11.3	11.3	11.6	9.6	9.3	8.5	8.6	9.1	9.1	8.9	10.4	11.2	
令和		2年	22	10.9	12.5	11.4	11.0	11.0	11.2	9.9	9.4	9.8	10.1	10.4	11.9	12.0
		27	11.7	15.3	12.8	12.9	11.6	11.2	10.7	10.2	10.4	10.5	11.1	12.0	12.0	
		3	12.4	14.5	14.1	12.8	12.1	11.3	11.4	10.8	11.7	11.1	12.4	12.6	13.9	
		4	14.1	14.9	15.6	14.1	12.9	12.6	13.0	12.2	13.8	14.7	14.0	15.0	16.9	
乳児出生千対		昭和	45年	15.2	24.4	11.0	14.3	18.6	13.0	14.7	13.6	10.1	12.0	17.0	10.0	21.1
			50	10.6	8.6	6.6	13.7	5.3	14.7	9.8	13.1	10.6	11.0	9.8	10.2	9.9
			55	6.9	9.6	4.1	4.6	5.7	7.4	4.8	10.2	6.5	7.7	9.4	5.8	4.7
			60	6.0	4.9	6.6	7.9	6.2	8.9	5.1	7.0	7.6	3.1	4.0	5.2	5.0
	平成	2年	4.6	5.0	1.4	3.7	1.3	3.7	5.1	4.9	3.7	1.3	7.4	10.2	7.4	
		7	3.7	8.1	3.0	8.1	-	6.7	7.0	1.3	2.7	-	2.7	2.8	1.3	
		12	2.9	4.1	1.4	1.4	7.0	5.4	1.4	1.4	4.2	1.4	1.4	1.4	4.1	
		17	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	-	3.2	1.6	3.1	-	1.6	1.6	3.1	
	令和	2年	22	2.4	1.5	3.4	1.5	1.6	4.6	1.6	1.5	4.6	-	3.1	4.8	
		27	1.0	-	-	-	1.7	3.3	-	1.7	1.7	-	-	3.4	-	
		3	1.9	2.0	4.5	4.0	2.1	2.0	4.2	-	4.0	-	-	-	-	
		4	1.1	2.1	-	-	2.2	4.2	-	-	2.1	2.2	-	-	-	
	死産千対	昭和	45年	75.9	71.2	90.7	77.5	85.1	82.6	79.4	75.5	70.1	78.5	67.0	75.9	57.3
			50	57.7	52.2	58.6	60.2	64.3	62.3	38.9	67.1	67.1	61.3	56.6	54.2	48.5
			55	51.0	68.3	54.1	54.9	47.1	56.3	46.3	59.4	48.7	55.8	47.4	40.2	46.1
			60	51.2	47.9	57.1	53.3	63.1	72.8	47.6	44.5	44.9	38.1	51.0	46.2	47.1
平成		2年	49.2	56.5	57.3	48.3	44.8	45.4	38.0	45.8	52.9	60.7	51.6	48.8	40.5	
		7	40.5	29.8	44.4	59.5	33.4	41.4	33.4	44.0	42.7	25.4	41.4	49.5	40.1	
		12	40.7	32.4	36.0	51.8	36.1	44.0	54.9	37.6	35.0	40.1	36.3	41.5	42.7	
		17	32.1	31.3	38.1	37.4	38.1	20.6	19.3	33.4	31.4	35.3	27.3	36.3	36.8	
令和		2年	22	29.6	20.7	35.4	31.2	29.1	34.5	34.6	24.1	25.0	32.8	16.6	27.8	
		27	22.6	19.8	17.5	34.8	20.5	26.9	29.3	13.1	18.8	31.2	19.6	14.3	23.1	
		3	19.0	26.0	30.2	21.7	15.4	19.4	30.4	7.9	5.3	14.5	13.5	13.5	31.1	
		4	18.1	19.3	14.3	22.3	13.1	18.6	20.1	13.6	29.0	10.8	13.5	23.6	20.0	
婚姻人口千対		昭和	45年	7.3	5.6	7.4	10.1	11.6	9.9	7.2	3.9	3.2	3.4	8.7	7.9	8.6
			50	7.3	5.6	7.7	10.2	11.6	11.4	5.9	3.6	2.1	3.0	9.2	9.0	8.0
			55	6.4	4.9	6.8	8.6	9.1	10.2	5.4	2.6	1.8	3.4	7.4	8.3	8.0
			60	5.6	3.3	5.4	8.1	8.1	9.0	4.9	3.0	1.8	4.2	7.2	7.5	6.0
	平成	2年	5.2	3.1	4.7	7.0	6.9	7.4	6.0	3.2	1.9	3.1	6.6	6.7	5.4	
		7	5.2	3.6	4.1	6.6	5.6	6.9	5.9	4.4	2.6	4.0	6.0	6.8	5.3	
		12	5.4	5.3	5.5	6.7	5.4	5.9	5.5	4.9	3.2	5.1	5.5	6.3	6.2	
		17	4.8	3.7	4.6	6.2	5.0	5.4	4.0	4.3	3.6	4.4	5.2	6.2	5.1	
	令和	2年	22	5.0	4.2	6.1	5.4	5.0	5.0	4.2	4.6	4.1	4.5	5.7	5.8	
		27	4.5	3.9	4.2	7.0	3.9	4.6	3.6	4.2	4.1	3.6	4.2	5.4	4.8	
		3	3.8	3.3	6.1	3.8	3.2	2.8	4.3	3.3	3.7	2.4	2.9	5.9	3.7	
		4	3.3	3.4	4.3	5.8	3.4	3.9	3.7	3.5	3.6	2.5	2.4	5.1	3.4	
	離婚人口千対	昭和	45年	0.79	0.62	0.74	0.78	0.96	0.66	0.84	0.77	0.80	0.88	0.91	0.70	0.77
			50	0.90	0.93	1.01	0.89	1.00	0.94	0.89	0.93	0.82	0.95	0.86	0.79	0.83
			55	0.99	0.81	0.98	0.93	1.31	1.07	0.82	1.04	0.90	1.14	1.23	0.88	1.13
			60	1.24	0.94	1.38	1.33	1.12	1.21	1.09	1.35	1.34	1.20	1.39	1.19	1.37
平成		2年	1.13	0.98	1.04	1.69	1.18	1.25	1.19	1.28	0.93	0.99	0.99	0.96	1.07	
		7	1.39	1.49	1.46	1.55	1.38	1.48	1.27	1.48	1.23	1.28	1.37	1.38	1.27	
		12	1.87	1.36	2.12	1.86	2.07	2.13	1.79	2.00	1.69	1.90	1.92	1.62	2.00	
		17	2.04	2.05	1.83	2.10	2.10	1.94	2.10	1.92	2.21	2.02	1.95	2.03	2.20	
令和		2年	22	1.82	1.82	2.26	1.98	1.48	1.78	1.57	1.91	1.94	1.61	1.68	1.53	
		27	1.63	1.36	1.84	2.19	1.56	1.58	1.69	1.87	1.38	1.54	1.52	1.38	1.70	
		3	1.53	1.70	1.68	1.98	1.68	1.41	1.47	1.14	1.38	1.52	1.45	1.38	1.63	
		4	1.48	1.30	1.60	2.30	1.61	1.30	1.35	1.24	1.47	1.40	1.40	1.40	1.46	
令和		5	1.31	1.26	1.55	1.92	1.27	1.22	1.47	1.07	1.17	1.50	1.17	0.97	1.20	
		6	1.46	1.23	1.51	2.26	1.67	1.32	1.49	1.17	1.36	1.28	1.60	1.33	1.33	
		6	1.49	1.44	1.23	1.98	1.66	1.55	1.32	1.60	1.31	1.63	1.40	1.41	1.35	